



女子レーサーたちの新しい目標がここから始まる。
記念すべき第1回はボートレース発祥の地から!!

新たに紡いでゆく女王たちの系譜!

第1回



賞金女王決定戦

12/11^{TUE} 12^{WED} 13^{THU} 14^{FRI} 15^{SAT} 16^{SUN} & シリーズ戦

オープニングの栞



積み重ねられた記録、そして記憶...

ファンが選ぶ!
次世代へ
語り継ぎたい選手!
投票参考ブック

賞金女王のシンボルを戴冠するのは?



BOAT RACE 大村 
24h <http://www.omurakyotei.jp>



賞金女王決定戦の出場予定選手

11月26日順位発表!
(チャレンジカップ終了時までの獲得賞金順位で決定)

賞金女王シリーズ戦(一般)
賞金13位から順に42名 12/11~16

賞金女王決定戦GI
獲得賞金1~12位(12名) 12/13~16

賞金女王決定戦・シリーズ戦 開催予定

	賞金女王シリーズ戦	賞金女王決定戦
12/11 (火)	1R 予選 11R 12R ドリーム戦	
12/12 (水)	1R 予選 12R	
12/13 (木)	1R 予選 10R	11R トライアル 12R
12/14 (金)	1R 予選 10R	11R トライアル 12R
12/15 (土)	1R 一般戦 7R 8R 準優勝戦 10R	11R トライアル 12R
12/16 (日)	1R 一般戦 6R 7R 選抜戦 9R 11R 優勝戦	10R 順位決定戦 12R 賞金女王決定戦

賞金女王トライアル得点

着点	1着	2着	3着	4着	5着	6着
得点	10	9	7	6	5	4

この「賞金女王決定戦」においては、「賞金女王決定戦」同様に、トライアルの着順による得点が特別に設定されている。上位着順と下位着順の得点差が小さく第1戦、第2戦で上位着順を取った選手は精神的にも大きく優位に立てるので有利になる。最近5年の賞金女王決定戦の例をみると、第1戦で1着を取った10人のうち9人までが優出している。ボーダーラインは、ここ3年続いて21点となっており、22点ならば優出圏内だ。ただしスタート事故はもちろん、失格艇が出るボウダーラインが大きく変わってくることもある。失格になると、たとえ責任外でも得点が加算できないため、優出はほぼ不可能になる。

なおシリーズ戦の方は、一般戦扱いのため、大村独自の得点方式で、ドリーム戦、特選以外は通常の得点(1着から順に10・8・6・4・2・1点)で計算される。また大村お馴染みの1R目覚まし戦も実施される。

賞金上位12戦士の決戦

この「賞金女王決定戦」(GI)並びに「賞金女王シリーズ戦」は、今年が第1回なので、出場選手の選抜方法と、その節の勝ち抜きシステムを簡単に紹介していこう。既に26回を数える「賞金女王決定戦」並びに同シリーズ戦と、ほぼ同じシステムだと認識してもらっていいだろう。

まず女子選手の中から、その年の1月1日からチャレンジカップ終了日(今年であれば11月25日)までの獲得賞金上位12名が「賞金女王決定戦」に乗る資格を得る。なお賞金12位以内であれば、女子レースへのあつせん除外選手、スタート事故による出場辞退期間と重な

る選手でも出場できる。本稿締切時点ではまだ出場選手は確定していないが、出場のボウダー賞金額は2200万円前後に落ち着きそうだ。

さらにその12人に続く、賞金額13位から賞金順に42名が「賞金女王シリーズ戦」に参加する。こちらには、女子レースへのあつせん除外選手と賞金16位以下のスタート事故出場辞退期間の選手は参加できない(賞金13~15位の選手は出場可能)。

シリーズ戦は11日に開幕

この節の開催スタイルについては左図を参照していただきたい。まず「賞金女王シリーズ戦」が先行してスタート(12月11日)。通常の6日間の一般開催同様

に、4日目までが予選、5日目に準優勝戦、6日目(16日11R)に優勝戦を行う。

一方「賞金女王決定戦」の12人は、シリーズ戦2日目の12日にエンジン抽選・前検を行い、翌13日が初日。3日間、1日1走のトライアルレースを行い、3走の得点率上位6選手が「賞金女王決定戦」(16日12R)へと駒を進める。3レースしか走らないため、1走ごとの得点を持つ意味は重い。

トライアル第1走は、賞金額上位から順に艇番(1~6号艇)を与えられる。

特殊なトライアルの得点

したがって、賞金額1位と2位の選手が1号艇となる。続くトライアル第2、第3走の艇番は、抽選により決定。そして決定戦の艇番は、得点率の順で決まる。

第1回賞金女王決定戦(GI)

出場メンバーの選出と開催方法



昭和34年当時に水面を駆けた女子レーサーたち

現在の女子戦隆盛の先駆けとなった鈴木弓子



第1回的女子王座決定戦は1987年12月に行なわれ、優勝したのは鈴木弓子だった

その第1回は、大村での開催が決定。今年創設60周年を迎えたボートレースは、また新たな時代に入ったと捉えることもできるが、その年に生まれる女子レース新時代の象徴がまたこの発祥の地でスタートすることは何やら因縁めいてはいまいか。新しく紡いでいくことになる女王の系譜が始まり、初代のマネークイーンがもうすぐ生まれる!

そして今年、平成24年から、レース体系見直しの中で「賞金女王決定戦」(GI)が新設されることとなった。今やボート界全ての選手が最終目標としているのが年末の「賞金女王決定戦」であるが、女子レースの頂点もまた、12月に行われるこの「賞金女王決定戦」と位置づけられていくことになるだろう。

女子戦新時代もボートレース大村から始まる!!

昭和27年、大村でボートレースが始まった当初から、女子レーサーも生まれた。30年代後半からは選手数が大きく減ったこともあるが、それでも絶えることはなかった。昭和の終わりに再び女子の選手志望者が増加し、62年に第1回女子王座決定戦を開催。その後もほぼ毎期デビューし、10年ほど前からわかには人気沸騰しはじめ、現在は総勢で180名を超える。

女子王座創設当初から活躍してきた日高逸子



4000番台で初めて女子王座を獲得した田口節子





賞金女王の出場選手はチャレンジカップ終了後に確定するので、現時点では選手を特定することはできない。そこでここでは10月中旬における獲得賞金額をもとに出場可能性の高い15選手をピックアップし、戦力評価を試みた(賞金や成績データは10月15日現在のもの)。

初の賞金女王は誰の手に!?

～有力15選手の戦力比較～

登番 3932



静岡 池田浩美

獲得賞金額		
18,908,000		
勝率	出走	
5.96	215	
1着	2着	3着
56	40	28
優出	優勝	ST
7	1	0.18

短評 はまれば強烈な旋回を繰り出す。コース問わすの攻めは外でこそ真価発揮

コース問わすの旋回力魅力

登番 3618



広島 海野ゆかり

獲得賞金額		
19,607,000		
勝率	出走	
6.85	192	
1着	2着	3着
59	44	32
優出	優勝	ST
8	2	0.17

短評 ターンスピードは未だに上位を争う。ここ一番での集中力が高く大舞台向き

勝負所ではさらに力増

登番 3845



兵庫 中谷朋子

獲得賞金額		
20,135,000		
勝率	出走	
6.87	220	
1着	2着	3着
66	59	31
優出	優勝	ST
8	0	0.19

短評 最終的にエンジンを仕上げてくるが、短期決戦では抽選運も味方にしたい

エンジン出しに定評あり

登番 3435



岡山 寺田千恵

獲得賞金額		
20,144,000		
勝率	出走	
6.84	205	
1着	2着	3着
65	43	28
優出	優勝	ST
7	2	0.17

短評 実力に加えて最近ではエンジン出しも安定している。女子では総合力上位のひとり

総合力は女子トップクラス

登番 4017



山口 向井美鈴

獲得賞金額		
20,669,500		
勝率	出走	
5.98	221	
1着	2着	3着
53	35	40
優出	優勝	ST
6	1	0.18

短評 仕上がりが遅いのが難点だが、好機さえ引ければ上位陣とも好勝負必至

水面でこそ光るレーサー気質

登番 4208



静岡 三浦永理

獲得賞金額		
24,294,500		
勝率	出走	
6.74	236	
1着	2着	3着
82	39	35
優出	優勝	ST
9	2	0.17

短評 ターンの迫力は男子顔負け。徐々に調子上げてきていることが不気味さを増す

男子顔負けの旋回が魅力

登番 4387



香川 平山智加

獲得賞金額		
24,633,500		
勝率	出走	
6.95	207	
1着	2着	3着
56	46	43
優出	優勝	ST
11	0	0.17

短評 レースセンスは女子の中でも一、二を争うが、V戦で連敗が気になるどころ

レースセンスはスター級

登番 3188



福岡 日高逸子

獲得賞金額		
29,403,000		
勝率	出走	
7.00	211	
1着	2着	3着
57	62	26
優出	優勝	ST
10	2	0.15

短評 超一流のさばきで安定感抜群。時折見せるセンター強襲で波乱演出も

超絶さばきで安定感抜群

登番 3232



香川 山川美由紀

獲得賞金額		
30,722,000		
勝率	出走	
7.05	184	
1着	2着	3着
63	36	27
優出	優勝	ST
8	3	0.16

短評 新制度で経験が有利に働いているが、真骨頂は誰にも負けない気合駆け!

気合駆けは驚異の破壊力

登番 4050



岡山 田口節子

獲得賞金額		
34,223,000		
勝率	出走	
6.76	198	
1着	2着	3着
58	33	34
優出	優勝	ST
8	3	0.16

短評 自在な攻めは女子ナンバーワン。メンタルが強くなったことが大舞台で生きる

最強のオールラウンダー



勝負強さを秘めた香川素子の大駆けも!



安定感ならピカイチといえる田口節子

今年はいよいよ変則的に女子王座決定戦が2回開催された。春の多摩川大会を制した田口節子、夏の若松大会を制した山川美由紀が賞金、実力ともに拮抗している。しかしながら、近況の勢いを見ると、山川美由紀の方を上に取りたい。特に新ペラ制度になってからの活躍が目覚ましい。女子王座も新制度後に獲ったものだが、その後も混合戦で優出、オール女子戦では手がつけれない強さで優勝するなど、乗りに乗っている状態だ。ベテランの経験と持ち前の気迫あるレースぶりは今、女子選手の中で頭ひとつ抜けている感があり、初の賞金女王に輝くのは山川である可能性が非常に高いと言えるのではないかと。一方の田口は、新制度になって成績自体は落ちてはいるものの、それはGIやSGでの大敗が響いてのもので、調子落ちではなさそう。山川とは逆に、いい意味での落ち着きが女子戦での安定した成績に繋がっているようだ。

新制度後の勢いは山川美由紀が一番!

そこに割って入るのは、日高逸子、横西奏恵、平山智加らの実力組。注目される横西は前期のF2でこの開催が休み明けのレースになってしまいうなどリズムは悪い。平山は調子自体はかなり良くなっているが、肝心の勝負どころで力が出し切れないのはマイナス材料。細川裕子も新ペラ制度で大躍進したひとりだが、こちらも横西同様前期F2で、賞金女王決定戦は長期欠場明けになり不安を残している。そんな中で伏兵として挙げたいのが香川素子だ。前期はA2ながらも7点勝率を残して調子を上げてきており、コース問わすのレース巧者が光る。また、勝負駆けや準優などで、思わぬ勝負強さを見せることも多く侮れない存在となりそうだ。また、出場はボーダー上ではあるが、寺田千恵・海野ゆかりはキャリア上位。出場がかなえばV争いも一気に混沌としてくる。

登番 3334



広島 角ひとみ

獲得賞金額		
20,859,000		
勝率	出走	
6.02	252	
1着	2着	3着
55	55	42
優出	優勝	ST
6	0	0.19

短評 調整力が光る。仕上がるときは超抜仕様になることも多く直前気配に注目を

超抜仕立てはお手のもの

登番 4123



愛知 細川裕子

獲得賞金額		
21,301,066		
勝率	出走	
6.36	200	
1着	2着	3着
46	38	53
優出	優勝	ST
6	3	0.20

短評 まくりの攻撃力はオール女子でも上位。苦手な差しを捨てまくりで一本で女王を目指す

いつだって強まくり敢行

登番 4183



愛知 宇野弥生

獲得賞金額		
21,933,000		
勝率	出走	
6.27	180	
1着	2着	3着
54	36	14
優出	優勝	ST
7	2	0.15

短評 「私らしい」スタート張り込んで攻めるレースを徹底。はまれば破壊力は一番

攻めてこそ真価を発揮

登番 3900



京都 香川素子

獲得賞金額		
22,175,066		
勝率	出走	
6.62	220	
1着	2着	3着
52	50	55
優出	優勝	ST
9	0	0.18

短評 近況の好調ぶりに注目。勝負どころでは力が増すタイプだけに警戒が必要だ

人気がないほど燃えるワザ師

登番 3774



徳島 横西奏恵

獲得賞金額		
24,043,000		
勝率	出走	
7.38	172	
1着	2着	3着
60	35	25
優出	優勝	ST
4	2	0.14

短評 実力はもはや言うまでもないが、フライング休み明けでレース勘に不安残す...

敵は他でもない自分のみ



笹川賞の常連ともなりつつある永井聖美

若手の台頭がシリーズを盛り上げる!!

賞金13位以下(42名)で争われるシリーズ戦は、グレイド的には一般戦だが、女子の実力選手を集めたシリーズであるだけに、女子王座決定戦に近いメンバ構成になることは間違いない。ただし、上位12名がいよいよ混戦も予想される。左表は10月中旬現在、賞金女王シリーズに選出される可能性が高い選手。注目したいのは、若手の台頭が著しくなってきたことだ。特に100期以降の若手の活躍が女子戦で目覚しくなってきたのは見逃せない。中堅からベテラン勢の強さが目立っていた昨今、ようやく女子選手の世代交代となりそうな気配だ。

上位陣では100期の平高奈菜や鎌倉涼を筆頭に遠藤エミ、樋口由加里らターンのレベルが元々高かった選手のさらなる成長が顕著。また、川野芽唯を中心に冬場になると調子を上げてくるのが福岡勢、こちらも見逃せないところだろう。何故か気温が下がると調整が合ってくるのか。穴党に



(左)落合直子、(右)鎌倉涼の若手大阪勢

短期決戦をどう戦う? 調整力のあるベテランに利!!

賞金女王決定戦は4日間の短期決戦。良いエンジンを引いた選手が圧倒的に有利なことは間違いない。じっくりと構えて調整している暇はないからだ。つまり、エンジン抽選は極めて重要と言えるのだが、女子戦におけるエンジン抽選には少し注意しておきたいことがある。

女子戦で、エースモーターを引いた選手が序盤で目立たないケースはよくある。エンジン勝率は、基本的に男子選手によって作られるものだ。体格や筋力など考えると、男子用の調整になっていることが多く、女子には合わないケースがある。それが新ペラ制度になってからより顕著になっているのは見逃せない。女子選手からは「こんな調整ではとても乗れない」という声がよく聞く。つまり、男子と女子で調整の仕方が少し違うということ。

その辺を考慮すると、短期決戦

賞金女王シリーズ戦

は人気薄の福岡勢に注目してほしい。

とはいっても、開催が行われるのはイン最強水面で内コース主体の大村だ。序盤はともかく、後半になるにつれてベテランの調整が合ってくれば、外の若手が苦しくなることも予想される。若手の勢いを買うか、ベテランの調整力を取るか、そのあたりの兼ね合いが舟券のキーポイントになってくるだろう。



コース不問で攻める池田浩美も怖い伏兵

賞金女王シリーズ戦出場可能性の高い選手

順位	登番	選手	登録	勝率	1着	優出	優勝	ST
16	3993	永井 聖美	愛知	6.01	48	6	0	0.18
17	3580	水口 由紀	京都	6.00	40	5	1	0.17
18	4456	鎌倉 涼	大阪	6.64	51	6	1	0.18
19	4289	落合 直子	大阪	6.11	42	4	1	0.16
20	3357	福島 陽子	岡山	5.29	30	2	0	0.22
21	4450	平高 奈菜	愛媛	6.44	48	6	3	0.20
22	3280	垣内 清美	三重	5.83	49	2	0	0.18
23	4190	長嶋 万記	静岡	6.61	51	5	2	0.16
24	3289	高橋 淳美	大阪	6.09	41	3	0	0.22
25	3674	岸 恵子	徳島	5.58	43	5	0	0.17
26	4014	片岡 恵里	山口	5.62	37	3	1	0.18
27	3470	新田 芳美	徳島	6.32	50	3	1	0.16
28	4482	守屋 美穂	岡山	5.74	39	2	0	0.19
29	3894	池田 明美	静岡	5.68	41	3	1	0.18
30	4011	堀之内紀代子	岡山	5.58	49	2	2	0.18
31	3175	渡辺 千草	神奈川	5.60	22	1	0	0.19
32	4464	山下 友貴	静岡	5.94	27	2	1	0.17
33	3140	佐藤 幸子	岡山	5.51	22	5	0	0.21
34	4399	松本 晶恵	群馬	5.39	34	3	1	0.19
35	4065	金田 幸子	岡山	5.92	51	3	0	0.16
36	4304	藤崎小百合	鹿児島	5.80	25	2	1	0.16
37	4286	平田さやか	東京	5.40	37	2	0	0.16
38	4501	樋口由加里	岡山	5.41	30	4	1	0.17
39	4045	佐々木裕美	山口	5.60	39	1	1	0.16
40	3579	中里 優子	埼玉	6.22	32	3	0	0.17
41	3999	大瀧明日香	愛知	6.26	33	4	0	0.19
42	4225	土屋 千明	群馬	5.29	23	3	0	0.16
43	4499	滝川真由子	愛知	5.21	24	1	0	0.18
44	4502	遠藤 エミ	滋賀	5.40	30	5	0	0.16
45	3604	武藤 綾子	福岡	4.98	20	1	0	0.22
46	3801	五反田 忍	大阪	5.29	34	3	1	0.17
47	3994	茶谷 桜	滋賀	4.68	19	0	0	0.20
48	2983	織飼菜穂子	愛知	5.56	21	1	0	0.18
49	4313	西村美智子	香川	5.48	22	2	0	0.18
50	3254	柳澤 千春	香川	5.07	18	2	0	0.23
51	4349	犬童 千秋	宮崎	5.02	20	1	0	0.18
52	4433	川野 芽唯	福岡	4.49	17	0	0	0.22
53	4246	喜多那由夏	静岡	4.57	22	0	0	0.17
54	3611	岩崎 芳美	徳島	5.96	27	2	1	0.17
55	4243	西村 歩	大阪	5.28	27	1	0	0.17
56	4117	廣中智紗衣	神奈川	5.30	19	0	0	0.23
57	3486	渡田 治代	福岡	5.14	18	0	0	0.21
58	4244	鈴木 成美	静岡	4.38	13	0	0	0.18
59	4170	西坂 香松	香川	4.46	12	2	0	0.20
60	3225	松村 昌子	東京	4.61	10	2	0	0.23
61	3707	野辺 香織	埼玉	4.31	9	1	0	0.23
62	4611	今井 美亜	富山	4.68	27	1	0	0.19
63	3317	大山 博美	福岡	4.14	14	0	0	0.21
64	3298	定野 久恵	静岡	4.87	13	0	0	0.20
65	3182	久保田美紀	群馬	4.84	14	0	0	0.22
66	4530	小野 生奈	福岡	4.91	17	0	0	0.18
67	3650	太田 雅美	佐賀	4.32	23	0	0	0.17
68	3355	橋谷田佳織	千葉	4.64	10	0	0	0.29
69	3177	宮本 紀美	東京	4.32	8	0	0	0.21
70	4400	加藤 奈月	福井	4.49	17	0	0	0.20

大村における女子戦の傾向 実績機を駆る選手がリードする!?

大村での純粋な女子戦は、昨年8月の蛭子能取杯「真夏の女王決定戦」にまで遡る。その節では、全72走で逃げは33回、差し、まくり、抜きは、それぞれ10回ずつで、まくり差しが9回。逃げが46%を占めていた。ただ、3連単の平均配当は4120円と本命決着が多い大村にしてはやや高めだった。優勝したのは2号艇の岩崎芳美で、2M抜きでの決着。3連単は8890円と荒れた。

昨年12月末のクリスマス男女W優勝戦は、7日間のロングランシリーズ。女子は優勝戦1号艇の日高逸子を、4号艇の栢場優子が5コースからまくり一撃で優勝。これも3連単は7950円の好配当となった。節間の決まり手は、全31走で、逃げが11回、差し、抜きが4回ずつ、まくりが6回、まくり差しが5回。平均配当は9160円で3連単の万舟券は8回も出た。一番参考になるのが、新ペラ制に移行してからのGII男女ガチンコMB大賞で、恐らくその時のメンバの大半が賞金女王決定戦に出場するはず。準備から男女混合戦となったので、予選4日間のデータを集計してみよう。全24走で、逃げは10回、差しは2回、まくりとまくり差しは4回ずつで、抜きは3回、恵まれが1回。予選最終日に3艇Fで平均配当を下げた割には、8490円と高めだった。優勝戦は、秋山直之、吉田弘文、馬袋義則、赤坂俊輔の記念常連と日高逸子を相手に、宇野弥生が4コースからまくり一撃で特別戦初V。3連単は1万3670円の高配当をつけた。

ベラ制だった頃とは明らかに違い、優勝した宇野を筆頭に、大瀧明日香や海野ゆかりなど、実績機を手にした選手たちの動きが目立っていた。中堅下位機を引いた横西奏恵は、辛うじて準備へ進むも、上位機には大差をつけられていた。予選4日間の万舟券は6回と、やや少なめだったが、配当的には6000円〜8000円の中穴配当が多く、3ヶタ配当は3艇Fのレースを含め4本だけだった。なお大村では、11月16日から21日まで女子リーグ第7戦が開催される。前哨戦として大いに注目したい。



スタートから果敢に攻める藤崎小百合

エンジン3強は16、50、41号機

今 年2月に新エンジンに変わって8カ月が経ち、エンジン相場は固まっている。タイプは今年度の更新から全国統一化されている321型ではなく、従来の301型だ。4月末に新ペラ制度が始まったが、9月末時点での2連対率上位8機は、乗り手を選ばず上位級に仕上がっている。

初下ろしからエースの座に居座り続けているのは16号機で、4月の60周年で中村亮太の地元記念初優出を後押し。7月の男女ガチンコMB大賞でも萬正嗣が選手間で評判の足に。

2連対率1位の50号機は、乗り手によって出足型になったり伸び型になったりする。7月のMB大賞では海野ゆかりが伸び型に仕上がっていた。予選最終日のFで賞典除外となったが、足は男女含めてトップ級だった。

16、50号機に匹敵するパワーがあるのは41号機。3月のMB誕生祭で森高一真が、7月の男女ガチンコMB大賞では宇野弥生が、そ

それぞれ優勝。9月には鈴木賢一が優勝、次節の野長瀬正孝も超抜で優勝戦の1号艇を手にした実績を残している。この3機がエンジン3強とみていい。

タイプ別だと、59、73、47、16号機は行き足から伸びにかけてが良くなる傾向があり、11号機は7月の男女ガチンコMB大賞で岡崎恭裕がターン回りを強力に仕上げたからバランス型に仕上がっている。9月中旬には松元佑紀が強力メンバ相手にカドの4コースからひとまくりしている。その一方で、9位の12号機は乗り手に恵ま



決戦の時を静かに待つ大村のピット

大村全エンジン評価表

M番	勝率	2連対率	出足	回足	伸び	評価
11	6.28	44.3%	○	○	○	85
12	5.67	42.7%	○	○	○	50
13	4.91	26.2%	○	○	○	60
14	4.44	22.8%	○	△	△	30
15	5.12	31.5%	○	○	○	60
16	6.33	45.6%	○	○	○	90
17	5.07	34.3%	○	○	○	60
18	4.40	24.0%	△	△	○	25
19	5.18	35.2%	○	○	○	50
20	5.47	36.7%	○	○	○	65
21	5.12	33.3%	○	○	○	55
22	5.18	33.5%	○	○	○	50
23	5.31	33.5%	○	○	○	55
24	4.76	23.6%	○	○	○	40
25	5.19	35.4%	○	○	○	60
26	4.35	26.3%	△	△	○	30
27	4.55	22.6%	△	△	○	20
28	5.02	29.3%	△	○	○	35
29	4.94	30.0%	○	○	○	35
30	5.09	32.8%	○	○	△	40
31	4.35	25.8%	○	○	○	45
32	5.46	34.4%	○	○	○	60
33	4.45	22.9%	○	○	△	35
34	4.79	32.3%	○	○	○	60
35	4.42	27.4%	△	△	○	30
36	4.51	25.1%	△	△	○	30
37	4.65	28.6%	○	△	△	30
38	5.48	38.4%	○	○	○	45
39	5.01	30.3%	○	○	○	40
40	5.01	31.8%	○	○	△	35
41	6.44	48.3%	○	○	○	90
43	5.69	39.5%	○	○	○	60
44	3.73	17.7%	△	△	○	25
45	4.99	30.1%	○	○	○	35
46	4.68	28.4%	○	○	○	55
47	5.91	44.0%	○	○	○	75
48	5.67	37.9%	○	○	○	65
49	5.60	36.5%	○	○	○	80
50	6.32	52.0%	○	○	○	85
51	5.23	31.6%	○	○	○	50
52	5.25	34.6%	○	○	○	50
53	5.64	40.8%	○	○	○	70
54	5.04	34.7%	○	○	○	50
55	5.89	35.1%	○	○	○	65
56	4.90	35.4%	△	△	○	30
57	5.71	40.0%	○	○	○	50
58	5.08	34.8%	○	○	○	55
59	6.38	46.4%	○	○	○	80
60	5.83	36.5%	○	○	○	70
61	5.74	41.0%	○	○	○	65
62	5.45	37.9%	○	○	○	45
63	5.05	32.8%	○	○	○	50
64	4.90	30.0%	○	○	△	45
65	5.12	36.1%	○	○	○	65
66	5.39	36.6%	○	○	○	50
67	4.17	19.5%	△	△	△	25
68	4.68	30.8%	△	△	○	30
69	4.79	27.1%	△	△	○	45
70	4.78	26.8%	○	○	○	45
71	4.70	30.8%	△	△	○	40
72	6.14	45.6%	○	○	○	70
73	5.98	44.1%	○	○	○	80
74	4.74	26.8%	○	○	○	65
75	4.81	29.9%	○	○	○	50
76	5.61	38.5%	○	○	○	50

ヴィジュアル面での大きな貢献

昭和の晩年頃に人気を集めた倉田ひろみ

平成初めの頃の群馬の女子レーサーたち

片山(現姓佐藤)幸子は強烈なセンター戦で活躍

いつかこの舞台上で脚きを放つ

GI MOTORBOAT

平成21年7月の津MB大賞ポスターモデルは加藤綾



昭和34年大村女子ダービーでは市内をパレード

女子選手が、ボートレースのヴィジュアル的なアピールに果たしてきた貢献度は小さくない。創設当初からオール女子戦は華やかで人気があり、開催時にはレース場の近隣地でパレードなども行われた。平成以降、再び女子選手が増えると、来場促進のグッズ(テレカやオレカなど)やポスターなどに、盛んに採用されてきた。当時、こうしたグッズのモデルとして数多く登場した選手をあげるなら、木村厚子さん・山川美由紀・海野ゆかりの3選手だろう。また、女子戦の開会式が華やかなことはファンにも知られているが、最近では各地のイベントにも女子選手は引っ張りだこだ。トークショーなどの集客力の高さはみなさんご存知のことだろう。



昭和34年の大村女子ダービー・上位入賞者たち

女子選手も60周年

そして人気爆発! この10年

二、一時は4名にまで減った女子選手

しかし30年代後半から、結婚して引退する選手が多く、女子選手の数は徐々に減ってきた。実は他の公営競技(競輪・オート・地方競馬)でも、創設当初は女子選手がいたが、この頃にはほとんど姿を消した。ボートでもその灯が消えかかったが、数名の選手が男子に混じって現役を続けた。

20年代から平成にかけて、39年間の選手生活を送った古川美千代さん(登録番号522「ボートレースマイスター」にも認定)はこう回顧する。

「昭和28年4月に選手登録した頃は、女子選手が40名ほどいたと思います。それが35年頃から減って、40年代から50年代にかけて最後に残ったのは、南田壽恵(449)さんに私、それに後輩の大森千恵(2426)、田中香代子(2465)の4人だけ。でももし自分ひとりになっても走り続けるつもりでした」。

その状況を打破したのが、昭和55年に9年ぶりの女子選手としてデビューした田中弓子(後に「鈴木」姓・2945 ボートレース殿堂選手に認定)だ

一、女子最古参は登番78号

ボートレースでは、その開始前から男女の別なく選手募集が行われた。創設当初から、全国モーターボート競走会連合会・笹川良一会長の、「これからの時代は女子も男子と同じステージで活躍すべきだ」という方針があったと言われている。さらに戦後の「男女同権」ブームにも乗って、女性の志望者も少なくなく、選手登録番号の二桁台から女性の名前が見られる。ちなみに最古参は78番の則次千恵子(岡山)だった。

昭和27年4月の大村における初開催から2年弱、29年3月には芦屋で初のオール女子戦が開催された記録が残っている。当時からひとつの開催を行えるだけの、女子選手の数が揃っていたことがわかる。当時も女子戦の人気は高く、芦屋に続いて各地のレース場で開催された。



昭和58年、23年ぶりに開催されたオール女子戦

つた。彼女は本栖研修所で養成を受けていた時からマスコミに注目され、デビュー後も活躍。それに続く女子の選手志望者が次々と現れてきた。同じ愛知支部の鵜飼菜穂子(2983・56年3月登録)もこの鈴木に憧れて艇界に飛び込んだひとりであり、以後はほとんど毎期、女子選手を採用するようになった。

そして58年8月、住之江で23年ぶりのオール女子戦が復活開催。その宣伝効果たるや絶大だった。



創成期から平成まで39年走った古川美千代さん



女子王座3連覇を達成した「インの鬼姫」鵜飼菜穂子

三、鵜飼・日高・山川らが 大レースへ



名人戦でも優出するなど円熟味を増した日高逸子

62年12月に第1回「女子王座決定戦」を開催。鈴木弓子はこの1戦での優勝を花道に、翌々年(平成元年)2月に引退。その後は、鵜飼・小神野紀代子・片山(現姓佐藤)幸子・日高逸子らが引き継いだ。彼女たちは今も現役であり、名人戦にも出場するなど長らく活躍を続け、女子戦を支えてきたのは衆知の通りだ。

中でも鵜飼は、「インの鬼姫」と呼ばれて頂点に君臨。リーグ戦を勝ちまくって最多優勝で優秀選手表彰を受けたり、女子王座を3連覇(第5回は完全V)するなど、平成初期の無敵ぶりを群を抜いていた。

それに続いて、若山美穂子(現在は美穂)・佐藤正子・谷川里江・山川美由紀らが台頭。谷川は父・宏之譲りの整備力と勝負強さで女子王座を連覇、山川のスピードも出色だった。そして鵜飼・日高・山川らは、地元周年や地区選などのGIや、笹川賞をはじめとするSGへの出走機会も増えた。

さらに高橋淳美・柳澤千春・垣内清美・藤家妙子・花澤葉子・大島聖子・角ひとみらもA級上位に進出。高橋は女子戦よりも混合戦で強く、大島のスタ

ートの切れは山川と双壁で、毎期高勝率を残した。

また結婚してもやめない選手が増え、日高・大島らは出産を経てさらに強さを増した。その点でも後輩選手に与える影響は大きかったといえる。こうして女子選手の層も厚くなり、リーグ戦は年間に20戦以上行われて人気も定着した。

平成デビュー組で最初に頭角を現したのは寺田千恵で、新田芳美・池現姓道上(千夏)・浅田千亜希ら四国勢が力をつけ、岩崎芳美・海野ゆかりの71期コンビ、西村めぐみらが続いた。

「女子王座決定戦」歴代優勝者

回	年	レース場	優勝選手
1	1987.12	浜名湖	鈴木 弓子
2	1989	多摩川	日高 逸子
3	1990	多摩川	鶴飼菜穂子
4	1991	蒲郡	鶴飼菜穂子
5	1992	戸田	鶴飼菜穂子
6	1993	多摩川	佐藤 正子
7	1994	浜名湖	谷川 里江
8	1995	多摩川	谷川 里江
9	1996	戸田	山川美由紀
10	1997	蒲郡	渡邊 博子
11	1998	三国	西村めぐみ
12	1999	尼崎	横西 奏恵
13	2000	丸亀	柳澤 千春
14	2001	多摩川	山川美由紀
15	2002	徳山	岩崎 芳美
16	2003	芦屋	西村めぐみ
17	2004	多摩川	海野ゆかり
18	2005	大村	日高 逸子
19	2006	浜名湖	横西 奏恵
20	2007	徳山	寺田 千恵
21	2008	津	横西 奏恵
22	2009	尼崎	新田 芳美
23	2010	下関	寺田 千恵
24	2011	三国	田口 節子
25	2012	多摩川	田口 節子
26	2012.8	若松	山川美由紀

※第2回から25回までは毎年3月に開催

●女子選手の通算1着数・ベスト5

順位	選手名	1着数
1	山川美由紀	1976
2	日高 逸子	1805
3	鶴飼菜穂子	1572
4	谷川 里江	1525
5	角 ひとみ	1372

(2012.10.10現在・他も同様)

●女子選手の通算勝率・ベスト5

順位	選手名	勝率
1	横西 奏恵	6.84
2	日高 逸子	6.78
3	山川美由紀	6.74
4	寺田 千恵	6.64
4	田口 節子	6.64

(出走回数1000回以上)

女子選手も60周年

—そして人気爆発! この10年

●最近7年間の女子リーグ戦売上げの推移

年度	売上げ
17	190億円
18	187億円
19	199億円
20	189億円
21	208億円
22	255億円
23	226億円

「女子リーグ」最近では女子リーグ戦の人気もさることながら、オール女子戦や男女半戦がずつづつW優勝戦の開催が増え、売上げに貢献している。

●女子選手の優勝回数・ベスト5

順位	選手名	優勝回数
1	山川美由紀	71
2	日高 逸子	66
3	鶴飼菜穂子	56
4	横西 奏恵	46
5	寺田 千恵	42

「優勝回数」女子リーグ戦の優勝回数に限定するならば鶴飼菜穂子がトップ。山川の優勝は混合戦のGⅠ四国地区選での優勝も含んでいる。



平成22年の最優秀新人表彰を受けた平高奈菜

で、年間出走回数が300走を超える選手もいる。そしてこの状況が反映されたものは定かではないが、最近デビューする女子選手も増えており、今年11月からデビューする111期にいたっては26名のうち女子選手が8名も占める。

そしてこの度、新たに女子戦の根幹レースとなる「第1回賞金女王」が、発祥の地・大村で60周年の年に開催される。ここからまた、女子選手と女子戦の新たな歴史が始まっていくことだろう。

女子プロスポーツの草分け

日本の女子プロスポーツを語る上でも、ボートレースの女子選手が存在意義は大きい。

戦後の公営競技では、いずれも女子選手を採用していたが、その多くは昭和30年代後半に姿を消した。ここ最近、競輪やオートで女子選手が復活したが、ボートでは選手数が激減はしたものの、絶えることなく水面を走り続けてきた。それが今の女子戦・女子選手の人気に繋がってきたといえる。昨今の女子アスリートブームに乗っただけではない。

また単に年月が長いだけでなく、プロスポーツとして確立されてきた側面はさらに大きい。以前より賞金下がったとはいえ、女子選手の平均年収は1000万円を超える(産休などで長期欠場の選手を除く)。あまり成績が上がらない選手でも500万円前後はあるので、プロ選手として成り立たない選手は皆無といつてよい。

他の女子のプロスポーツと比べても、その差は歴然といえる。昨年来話題になることの多い女子サッカーでは、プロ契約をしている選手でもその年俸は500万円以内が大半。ゴルフやテニス、ボウリングなどでは、年俸制でなく賞金制だけに、一部のトッププロのみが高額賞金を稼ぎ、下位では生活が苦しい。大会に参加する経費もないので、レッスン料などで糊口をしのいでいる選手が多いのが実情だ。

またプロスポーツ選手としては選手生命が長いのも、ボート選手の長所といえるだろう。とくに最近では、結婚・出産を経ても現役を続ける選手が多くなっている。



●女子選手及び女子戦のエポック

西暦	年	できごと
1952	昭和27	4月に大村でボートレース初開催 女子選手登録第1号は則次千恵子(登番78)
1953	28	第1回全日本選手権に則次ら女子3選手が出場
1954	29	3月、芦屋で初のオール女子戦が開催
1955	30	下関1周年で戸板君子、福岡2周年で田川照子が優勝
1957	32	杉本明子が住之江1周年を制する
1959	34	大村で女子ダービー開催 *30年代後半から女子選手が減少 *50年代初頭には4名まで減る
1980	55	9年ぶりに女子選手がデビュー(田中弓子) *以後、急速に女子選手が増える
1983	58	8月、住之江で23年ぶりにオール女子戦開催
1987	62	12月、浜名湖で第1回女子王座決定戦開催
1992	平成4	鶴飼菜穂子が女子王座3連覇を達成 古川美千代が現役39年で引退(最年長記録)
1999	11	四国地区選で山川美由紀が優勝
2000	12	女子王座決定戦がGⅠに昇格 女子リーグの出場資格が登録16年未満に限定 唐津GCで寺田千恵が女子選手で初のSG優出
2001	13	女子選手の最低体重制限が45kgから47kgへ
2003	15	総理杯で横西奏恵が優出(23年には笹川貴で優出)
2006	18	21年の最優秀新人に平高奈菜、女子が2年連続受賞
2010	22	田口節子が4000番台で初めて女子王座を制する
2011	23	大村GⅡ「男女ガチンコMB大賞」で宇野弥生が優勝
2012	24	12月、大村で「第1回賞金女王決定戦」開催へ

平成11年2月の四国地区選手権で、山川が大外から差しを決めて優勝を飾った。女子選手がGⅠを制したのは、先述の杉本明子(住之江1周年)以来で42年ぶりの快挙だった。

その1カ月後、第12回女子王座で新たな「怪物」がセンセーショナルに登場する。6mの強風の中、Fを2本持ちながら大外から豪快無比なまくりで制したのは横西奏恵。何とこれがデビュー初Vでもあった。

なお12年度からは、女子リーグ戦の参戦資格が登録16年未満と限定された。これにより、キャリアを積んだ女子選手は順次卒業していくことになった。続いて13年6月のグラウンドチャンピオン決定戦で、寺田千恵が女子初のSG優出を果たす。

G優出を果たす。それも1号艇だったのが、膨らんだが、惜しくも植木通彦に阻止された。

それでも女子選手の地力向上のアピールには十分だった。この頃から「女子選手と男子選手の最低体重の差が5kgというのは大き過ぎるのでは?」という声が出て、15年5月から、それまでの45kgから47kgへと、増量「された」。

横西に続いてトップ戦線へ顔を見せるようになったのが、濱村美鹿子や双子の池田姉妹(明美・浩美)、香川素子・永井聖美らだ。



SGで2回優出を果たしている横西奏恵

五、田口節子ら4000番台の台頭

17年頃から徐々に、85期の田口節子を筆頭に、堀之内紀代子・佐々木裕美・金田幸子・細川裕子・三浦永理ら4000番台の選手がリーグ戦でも上位へ。

とはいえ、3000番台の選手が力を落としてきたわけではない。日高は名人戦でも毎年優勝候補だし、寺田は遅まきながら女子王座を二度手にした。横西は史上タイの三度戴冠の後、SGで2回の優出を果たしている。そして今年度から8月に移行した女子王座を制したのは山川。彼女もV3で並んだ。

田口がようやく殻を破って女子王座

を初優勝したのは昨年のこと。それでも21年の最優秀新人に平山智加、22年の同タイトルに平高奈菜が連続して輝き、鎌倉涼は平成生まれの選手として最初のA級選手となった。さらに宇野弥生が、今年7月の大村GⅡ「男女ガチンコMB大賞」で大金星を挙げたことも記憶に新しい。3000番台の壁は高いが、4000番台の精鋭女子が世代交代に挑んでいる。

最近10年ほどの女子戦の人気は高く、リーグ戦だけでなく、「OG」も加わるオール女子戦や、男女半々のあつせんによるW優勝戦も増加。トップクラスの女子選手は全国で引っ張りだこ

大村の女子戦にはいつも期待!!

「毎年大村の女子戦には、『蛭子能収杯』という事で呼んでもらっています。だから女子戦や女子選手には思い出や愛着がありますね。

強さでいえば鶴飼菜穂子。女子戦で強かったという点では、いまだにナンバーワンだと思います。横西奏恵はカワイイのに、レースに行くと男勝り。寺田千恵が唐津グラチャンで優出した時は、女子のSG制覇を期待してドキドキしましたよ。

柳澤千春は波乱万丈の選手生活が思い出に残るひとり。金田幸子も開会式コメントが面白くて楽しませてくれました。それと香川素子は、舟券の相性もいいので、今回も賞金女王にいられたら期待しています」(談)



漫画家・蛭子能収さん

4238	毒島 誠	群馬	6.23	515
4239	竹田 辰也	山口	5.38	391
4240	今井 裕梨	群馬	4.39	217
4241	大串 重幸	長崎	4.97	272
4243	西村 歩	大阪	4.39	202
4244	鈴木 成美	静岡	4.15	169
4245	高橋 直哉	秋田	4.21	134
4246	喜多那由夏	静岡	3.82	115
4247	齊藤 優	徳島	5.31	308
4248	岡本 大	長崎	4.04	129
4249	曾根 孝仁	東京	3.00	63
4250	藤川 利文	福岡	4.20	139
4251	川崎 誠志	山口	4.02	145
4252	松下 哲也	福岡	3.78	123
4253	西川 真人	滋賀	4.67	179
4254	川島 圭司	滋賀	5.23	311
4255	野中健太郎	埼玉	2.59	5
4256	渡辺 浩司	福岡	5.75	396
4257	古川 健	広島	4.94	284
4258	関根 彰人	埼玉	4.52	173
4259	真庭 明志	長崎	5.60	364
4260	中越 博紀	愛媛	5.52	330
4261	岡 祐臣	三重	5.39	307
4262	馬場 貴也	京都	5.94	537
4263	武重 雄介	山口	4.73	189
4264	長尾 章平	山口	5.65	359
4265	村上 祐次	神奈川	3.47	60
4266	長田 頼宗	東京	5.73	380
4267	大峯 明菜	山口	2.65	11
4268	和合 俊介	宮崎	3.89	114
4269	杉山 裕也	愛知	5.32	361
4270	岸本 雄貴	三重	4.92	240
4271	川崎 公靖	広島	4.88	207
4272	大場 広孝	福岡	4.91	226
4273	佐藤 旭	静岡	5.09	219
4274	長畑 友輔	東京	4.38	168
4275	菅野はやか	広島	3.04	35
4276	鈴木 勝博	愛知	5.20	333
4277	金田 大輔	岡山	3.95	175
4278	藤岡 俊介	兵庫	5.61	336
4279	小島 寿人	栃木	2.60	19
4280	山本 章博	岡山	3.18	62
4281	大澤 大夢	埼玉	4.68	189
4282	中西 裕子	埼玉	3.61	86
4283	石井 裕美	千葉	2.73	32
4284	山本 良一	埼玉	3.56	91
4285	伴 将典	愛知	3.99	100
4286	平田さやか	東京	4.11	151
4287	今井 貴士	福岡	6.28	561
4288	永田 啓二	福岡	5.65	379
4289	落合 直子	大阪	4.61	166
4290	稲田 浩二	大阪	6.16	440
4291	山崎 紳弘	福岡	3.40	71
4292	麻生 慎介	広島	5.59	359
4293	鈴木 智啓	静岡	4.45	198
4294	古賀 繁輝	佐賀	6.45	543
4295	小坂 尚哉	兵庫	6.00	397
4296	岡崎 恭裕	福岡	6.67	493
4297	山田 哲也	千葉	6.10	475
4298	宮下 元胤	愛知	4.87	201
4299	中島 浩哉	長崎	3.98	99
4300	加藤 綾	三重	4.23	126

4301~4400番				
登番	名前	登録	勝率	1着
4301	関 裕也	福岡	4.41	159

4302	西野 翔太	広島	5.13	279
4303	牧原 崇	愛知	4.69	199
4304	藤崎小百合	鹿児島	4.87	158
4305	金子 拓矢	栃木	5.29	288
4306	畔柳 俊吾	愛知	3.52	126
4307	村上 橋蔵	愛知	3.28	67
4308	河村 了	愛知	5.25	265
4309	坂口 明義	香川	3.78	64
4310	横家 翔一	岐阜	3.31	65
4311	岡村 仁	大阪	5.59	303
4312	齋藤 陽介	愛知	2.55	29
4313	西村美智子	香川	4.61	140
4314	青木幸太郎	福岡	5.27	312
4315	山崎 昂介	長崎	4.18	168
4316	山口 裕太	広島	5.54	320
4317	木村沙友希	静岡	3.39	77
4318	桑原 将光	東京	4.66	170
4319	三宅 潤	大阪	4.41	148
4320	峰 竜太	佐賀	6.79	557
4321	岩田 優一	静岡	4.62	211
4322	永瀬 巧	群馬	3.26	70
4323	山田 佑樹	岡山	5.31	288
4324	海野康志郎	山口	5.88	391
4325	新出 浩司	大阪	3.99	99
4326	増田 大雅	愛知	2.56	9
4327	加藤 翔	静岡	4.59	158
4328	貞本 拓哉	広島	2.56	22
4329	小松 卓司	福岡	4.36	133
4330	奈須 啓太	福岡	5.30	248
4331	三好 勇人	愛媛	4.71	187
4332	村上 彰一	福岡	4.07	116
4333	村田 友也	徳島	4.80	222
4334	児玉 将	大阪	2.68	41
4335	若林 旭	千葉	5.61	270
4336	松本 竜馬	福岡	4.38	142
4337	平本 真之	愛知	6.43	400
4338	白石 佳江	滋賀	3.17	62
4339	平瀬 城啓	富山	3.31	61
4340	土性 雅也	三重	3.92	118
4341	足立かなえ	千葉	2.80	21
4342	谷野 錬志	静岡	5.57	293
4343	村岡 賢	広島	3.47	61
4344	新田 雄史	三重	6.76	435
4345	西館 健	神奈川	3.76	93
4346	前田健太郎	福岡	3.80	75
4347	魚谷 香織	福岡	5.77	261
4348	宮崎 奨	香川	4.28	91
4349	犬童 千秋	宮崎	3.76	81
4350	篠崎 元志	福岡	6.73	485
4351	里岡 右貴	福岡	4.90	224
4352	下條雄太郎	長崎	5.19	221
4353	下出 秀明	石川	3.78	105
4354	古川 舞	千葉	3.23	66
4355	小川 広大	福岡	3.75	71
4356	長岡 良也	兵庫	4.71	154
4357	田中 和也	大阪	5.29	235
4358	松本 庸平	三重	4.46	166
4359	横川 聖志	徳島	4.77	169
4360	庄司 孝輔	静岡	5.01	212
4361	山田 元胤	山口	5.52	272
4362	土屋 智則	群馬	5.98	337
4363	大野 芳顕	福岡	4.88	174
4364	池永 太	福岡	5.77	338
4365	盛本 真輔	兵庫	4.03	154
4366	前沢 丈史	東京	5.34	216

4301~4400番				
登番	名前	登録	勝率	1着
4301	関 裕也	福岡	4.41	159

4367	山口 修路	福岡	4.59	121
4368	山口 隆史	福岡	4.66	155
4369	丹下 将	愛知	4.95	224
4370	山口 達也	岡山	5.71	261
4371	西山 貴浩	福岡	6.23	357
4372	原田 佑実	大阪	3.99	39
4373	若狭奈美子	岡山	4.01	62
4374	永田 義紘	広島	3.16	42
4375	照屋 厚仁	兵庫	4.14	95
4376	藤田 靖弘	静岡	4.93	170
4377	濱本 優一	大阪	4.78	151
4378	川下 晃司	広島	4.54	124
4379	桑島 和宏	千葉	4.45	108
4380	鈴木 峻佑	愛知	3.83	87
4381	田路 朋史	兵庫	4.45	121
4382	高山 智至	京都	4.70	122
4383	竹本 吉行	徳島	3.88	77
4384	鶴田 崇文	大阪	5.61	238
4385	鈴木祐美子	三重	3.21	43
4386	森下 祐丞	兵庫	3.93	74
4387	平山 智加	香川	6.37	374
4388	是澤 孝宏	京都	4.93	169
4389	伊藤 喜智	大阪	4.54	124
4390	松本 弓雄	徳島	3.66	82
4391	松田 祐季	福井	6.29	341
4393	田中 孝明	福岡	4.13	85
4394	神田 裕一	福岡	4.16	80
4395	下河 雅史	福岡	4.36	88
4396	大田 直弥	山口	4.35	96
4397	西村 拓也	大阪	6.13	299
4398	船岡洋一郎	広島	5.11	174
4399	松本 晶恵	群馬	5.22	193
4400	加藤 奈月	福井	3.69	68

4401~4500番				
登番	名前	登録	勝率	1着
4401	小林 泰	山梨	4.54	110
4402	乙藤 智史	福岡	4.78	158
4403	木下 大將	福岡	4.96	129
4404	岸蔭 亮	兵庫	4.51	103
4405	南野 利騰	石川	3.99	86
4406	幸野 史明	福岡	3.71	71
4407	鹿島 敏弘	群馬	4.43	94
4408	仁科さやか	長崎	3.35	50
4409	坂元 浩仁	愛知	5.62	307
4410	井上 大輔	岡山	5.00	190
4411	沢田 昭宏	大阪	5.26	198
4412	大原 由子	大阪	1.59	2
4413	水摩 敦	福岡	5.77	253
4414	大澤 真菜	茨城	3.20	55
4415	下出 卓矢	石川	4.92	177
4416	三宅 健太	広島	4.23	89
4417	服部 剛	静岡	4.10	56
4418	茅原 悠紀	岡山	6.23	363
4419	原 加央理	埼玉	3.72	41
4420	津久井拓也	栃木	4.28	95
4421	森作 広大	茨城	3.39	41
4422	永井 亮次	大阪	3.94	77
4423	坂口 貴彦	岡山	3.70	75
4424	松尾 昂明	福岡	5.36	180
4425	大井 清貴	山口	3.97	58
4426	中上 勝貴	福岡	2.48	12
4427	秦 英悟	大阪	5.29	198
4428	有賀 達也	埼玉	3.92	82
4429	豊田 泰洋	広島	3.44	41
4430	永田 秀二	東京	5.02	130

4431	石塚 裕介	三重	3.55	57
4432	黄金井力良	埼玉	4.24	74
4433	川野 芽唯	福岡	3.90	72
4434	田中 辰彦	広島	3.27	42
4435	服部 達哉	愛知	3.50	56
4436	渋谷 明憲	大阪	4.06	67
4437	中田 元泰	香川	3.90	80
4438	森作 雄大	茨城	2.94	35
4439	近藤 友宝	埼玉	3.55	40
4440	萩原 知哉	埼玉	3.22	32
4441	末永 由菜	岡山	4.30	105
4442	松竹 大輔	愛知	4.34	91
4443	津田 裕絵	山口	3.90	63
4444	桐生 順平	埼玉	6.29	269
4445	宮地 元輝	佐賀	4.48	109
4446	和田 兼輔	兵庫	5.27	148
4447	深川麻奈美	福岡	3.06	28
4448	青木 玄太	滋賀	5.58	176
4449	中嶋 達也	兵庫	3.65	76
4450	平高 奈菜	愛媛	5.55	220
4451	松崎祐太郎	福岡	5.14	161
4452	松尾 祭	愛媛	4.03	60
4453	永田 郁弥	愛知	3.42	58
4454	梅崎 恵美	佐賀	2.35	10
4455	平本さやか	愛知	2.63	11
4456	鎌倉 涼	大阪	5.63	198
4457	神田 達也	愛知	3.32	37
4458	抹香 雄三	広島	3.26	25
4459	片岡 雅裕	香川	4.73	145
4460	後藤 翔之	東京	5.84	210
4461	安田 吉宏	三重	3.07	25
4462	夏山 亮平	大阪	3.36	31
4463	三苫 晃幸	福岡	3.79	43
4464	山下 友貴	静岡	4.47	76
4465	大西 賢	茨城	2.89	13
4466	南 佑典	三重	3.96	65
4467	渡邊 俊介	岐阜	4.34	58
4468	大池 佑来	神奈川	4.85	116
4469	土山 卓也	福井	3.93	66
4470	平田健之佑	三重	4.41	95
4471	新田 泰章	広島	4.00	68
4472	尾嶋 一広	兵庫	3.95	66
4473	藤堂 里香	福井	3.59	43
4474	渡辺 崇	大分	2.93	19
4475	末永 祐輝	山口	4.29	100
4476	竹中 晶	和歌山	1.35	0
4477	篠崎 仁志	福岡	5.83	255
4478	櫻本あゆみ	栃木	3.63	43
4479	矢野真梨菜	福岡	2.18	7
4480	小林 靖菜	栃木	2.08	5
4481	前田 梓	愛知	1.70	2
4482	守屋 美穂	岡山	4.81	106
4483	北野 輝季	愛知	4.30	83
4484	稻生 夏季	東京	3.09	23
4485	楠原 正剛	福岡	4.27	70
4486	野村 誠	群馬	4.39	57
4487	三原 勲	福岡	3.07	22
4488	小山 勉	埼玉	4.70	94
4489	岩川 仁士	大阪	2.85	11
4490	椎原 健	京都	2.45	11
4491	田中 堅	群馬	4.04	43
4492	本多 宏和	愛知	4.58</	

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Points. Rows 3728-3792.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Points. Rows 3793-3857.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Points. Rows 3858-3922.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Points. Rows 3923-3987.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Points. Rows 3988-4052.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Points. Rows 4053-4117.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Points. Rows 4118-4182.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Points. Rows 4183-4247.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Points. Rows 4248-4312.

Table with 5 columns: ID, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 3215-3281.

Table with 5 columns: ID, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 3282-3300, 3301~3400番, 3301-3344.

Table with 5 columns: ID, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 3345-3400, 3401~3500番, 3401-3447.

Table with 5 columns: ID, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 3448-3500, 3501~3600番, 3501-3550.

Table with 5 columns: ID, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 3551-3600, 3601~3700番, 3601-3650.

Table with 5 columns: ID, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 3651-3700, 3701~3800番, 3701-3750.

Table with 5 columns: ID, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 3751-3800, 3801~3900番, 3801-3850.

Table with 5 columns: ID, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 3851-3900, 3901~4000番, 3901-3950.

Table with 5 columns: ID, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 3951-4000, 4001~4100番, 4001-4050.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Votes. Range 2700-2763.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Votes. Range 2764-2827.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Votes. Range 2828-2891.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Votes. Range 2892-2955.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Votes. Range 2956-3019.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Votes. Range 3020-3083.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Votes. Range 3084-3147.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Votes. Range 3148-3211.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Win Rate, Votes. Range 3212-3275.

2169	山口 雅司	東京	4.72	866
2170	古川 文雄	佐賀	6.37	1791
2171	江尻 静宣	広島	4.63	568
2172	原口 孝志	東京	3.88	168
2173	皆川 武	埼玉	5.68	876
2174	井上 英二	京都	4.95	830
2175	一瀬 大宇	長崎	4.06	363
2176	小浜 久夫	徳島	4.19	379
2177	中井 清	福岡	4.54	610
2178	石倉 光芳	愛知	4.89	244
2179	吉岡 勤	大阪	4.76	717
2180	善本 正教	広島	4.74	553
2181	角岡 久人	愛知	4.14	377
2182	加藤 浩	佐賀	5.29	64
2183	佐藤 晃	栃木	4.96	382
2184	岡部 節生	三重	4.70	240
2185	大久保勝義	埼玉	4.56	589
2186	奥田 豊	兵庫	5.25	1239
2187	平田 貢	兵庫	4.15	370
2188	三井 宣彦	埼玉	4.16	31
2189	筒井 博利	徳島	4.54	197
2190	岩下 太男	佐賀	5.56	1491
2191	市原 義則	徳島	4.93	917
2192	伊達 喬	兵庫	5.46	1674
2193	西 郁夫	佐賀	4.96	1160
2194	神ノ口国光	三重	5.70	1835
2195	樋口 保宏	長崎	5.58	1539
2196	清水 克一	福岡	6.60	1687
2197	新見 健二	岡山	5.05	1025
2198	森 實	徳島	5.78	1653
2199	川上 良雄	福岡	4.72	937
2200	荒木 保昌	兵庫	5.58	1471

2234	鈴木 時雄	静岡	4.07	188
2235	川原美津男	福岡	4.62	184
2236	中川 弘	徳島	5.57	1157
2237	相原 五郎	大阪	6.02	1531
2238	金谷 英男	大阪	5.95	1822
2239	小野 和也	群馬	4.78	680
2240	高森 弘美	大阪	3.80	421
2241	多米 守	静岡	3.93	369
2242	森 浩二	兵庫	4.01	291
2243	松井 正男	高知	4.05	399
2244	谷川 純子	東京	3.71	10
2245	木村 普綽	佐賀	3.91	193
2247	渡辺 武	静岡	4.56	658
2248	木村正太郎	福岡	5.84	1179
2249	福田 栄治	群馬	5.95	1705
2250	樋口 哲夫	福岡	4.89	349
2251	和田 保	静岡	4.35	379
2253	横山 進一	三重	5.86	1770
2254	田中 守	佐賀	5.44	1323
2255	平島 信行	兵庫	5.51	1228
2256	西尾 照雄	兵庫	4.88	821
2257	島田 徹	徳島	4.20	454
2258	山田 邦男	静岡	4.86	692
2259	梅田 真右	群馬	4.48	470
2260	林 通	岡山	6.48	2196
2261	石山 利雄	徳島	4.31	379
2262	須本 保長	岡山	4.22	486
2263	西田 悦郎	大阪	5.19	176
2264	笹田 久明	徳島	5.44	1006
2265	山本 義隆	佐賀	4.66	853
2266	柿田 伸治	愛知	4.17	48
2267	森 均	徳島	3.53	89
2268	樋口 豊二	千葉	4.68	238
2269	松岡富士男	徳島	2.47	3
2270	岡田 隆	群馬	4.75	274
2272	丸山 三郎	兵庫	5.55	1013
2273	原田 順一	福岡	6.27	2240
2274	今泉 雅夫	群馬	5.00	1011
2275	江原 正義	群馬	5.99	1771
2276	古谷 猛	岡山	6.19	2651
2277	藤井 孝臣	山口	5.53	1212
2278	元井 秀行	三重	5.41	1072
2279	広瀬 正義	長崎	4.82	739
2280	今田 勝	香川	4.60	672
2281	森山 富生	長崎	4.49	248
2282	伊藤 孝夫	兵庫	4.71	477
2283	内田 功	埼玉	5.31	1314
2284	藤本 勝弘	福岡	4.24	248
2285	古賀 藤太	福岡	5.17	1247
2286	長嶺 保	大阪	5.70	422
2288	吉田 重義	大阪	6.27	2124
2289	上船 俊一	奈良	5.81	1522
2290	西村 憲二	大阪	4.61	173
2291	野中 和夫	大阪	7.50	2574
2292	杉本 弘	熊本	3.19	18
2293	内田 賢二	岡山	4.66	569
2294	田川 昭	長崎	4.16	292
2295	吉川 壽宏	長崎	4.75	509
2296	今重 浩	東京	3.91	271
2297	茂木東喜彦	埼玉	4.48	185
2298	山下 貞義	長崎	4.19	374
2299	鍵和田 勇	東京	5.75	1413
2300	野畑 哲男	愛知	5.25	1019

2301~2400番				
登番	名前	登録	勝率	1着
2301	窪田 稔	岡山	4.92	867
2302	杉山 公宏	山口	1.45	0
2303	松田 誠	千葉	4.70	300
2304	浅田 正三	茨城	3.68	151
2305	竹村 一雄	兵庫	4.90	846
2306	石山 好夫	群馬	5.18	718
2307	柚木 益巳	鹿嶋	4.97	896
2308	筒井賢四郎	佐賀	5.03	1183
2309	田中 道男	愛知	4.88	834
2310	花田 龍美	埼玉	5.69	459
2311	小西 元親	佐賀	6.11	1886
2312	本井 伸一	香川	4.70	510
2313	加藤 正章	静岡	4.43	506
2314	橋本 淳二	福岡	4.31	909
2315	近藤 三幹	愛知	4.70	708
2316	一瀬 誠	福岡	5.18	867
2317	重岡 金次	山口	5.87	1453
2318	小島 芳郎	群馬	4.07	201
2319	土澤 栄	栃木	4.71	731
2320	石田 哲実	岡山	5.07	1001
2321	下川 弘	福岡	2.88	0
2322	浜地富美雄	大阪	5.00	893
2323	矢内 久功	群馬	5.10	845
2324	栗原孝一郎	埼玉	6.60	1801
2325	渡辺 義則	宮崎	6.75	2351
2326	紫垣 順一	熊本	5.88	1886
2327	向 義行	佐賀	6.06	1523
2328	松尾 平秋	静岡	5.30	936
2329	永瀆 芳行	埼玉	5.53	1586
2330	磯野 勇治	静岡	4.78	685
2331	溝口 聖悟	福岡	4.93	857
2332	渡部 喜春	徳島	4.51	351
2333	持田 庄次	神奈川	5.49	769
2334	大塚 昭美	東京	4.09	378
2335	山口 省三	佐賀	4.57	751
2336	細川 一昭	徳島	3.80	289
2337	池上 武	東京	4.74	170
2338	米谷 実	徳島	4.67	816
2339	福永 克己	広島	4.62	301
2340	八木秀二郎	福岡	4.77	417
2341	元山 義良	鹿児島	3.71	121
2342	小林 旭	群馬	5.45	1702
2343	池浦平四郎	福岡	4.79	631
2344	田原 洋一	埼玉	5.65	515
2345	三島 豊弘	福岡	5.82	1467
2346	山地 忠彦	岡山	4.69	589
2347	前原 利男	群馬	3.77	94
2348	糸平 邦功	埼玉	4.56	666
2349	野末 昌男	静岡	5.55	1548
2350	杉本 博明	熊本	5.33	1444
2351	赤沢 正一	岡山	4.39	540
2352	渡辺一三六	愛知	4.32	610
2353	服部 聡	愛知	4.65	656
2354	田村 吉男	山口	4.74	977
2355	茂木 敏男	埼玉	5.41	1049
2356	蛇山 清	徳島	4.08	16
2357	羽尾 勉	埼玉	6.08	1721
2358	谷添 悟	熊本	4.77	986
2359	柳川 晃広	徳島	5.38	1064
2360	桂川 鐵也	愛知	4.05	300
2361	鍛冶 義晴	徳島	6.41	1893
2362	浅香 登	三重	6.20	2173
2363	伊藤 洋一	福岡	4.83	126

2364	井芹 巧	熊本	5.71	1391
2365	山本 秀雄	静岡	3.62	32
2366	織田 実	佐賀	4.92	290
2367	津田 健次	佐賀	4.44	574
2368	坂井 充夫	東京	2.74	24
2369	池添 修二	香川	4.29	249
2370	上中 俊夫	大阪	5.15	992
2371	古川 吉郎	徳島	5.13	929
2372	石川 正美	愛知	6.28	2249
2373	魚返 滝生	大分	4.36	133
2374	水野 健二	埼玉	4.52	430
2375	藤田 進	徳島	4.92	1167
2376	新開 文夫	徳島	5.90	2045
2377	倉尾 良一	福岡	6.12	2152
2378	高橋 一功	愛知	4.79	553
2379	日比 高俊	愛知	5.47	581
2380	関 忠志	岡山	6.39	2417
2381	設楽 一政	埼玉	3.20	37
2382	生部 守	京都	4.75	984
2383	田中 進一	栃木	4.90	878
2384	辻 與四宏	石川	4.06	327
2385	大岩 章	東京	5.86	1380
2386	三小田昭光	福岡	5.54	1525
2387	小川 忠良	埼玉	5.72	1667
2388	榎 博司	広島	4.33	557
2389	上野信太郎	福岡	4.13	503
2391	大場 利彦	神奈川	5.61	1254
2392	長岡 隆雄	群馬	5.20	1040
2393	美濃 乾朗	愛知	4.52	552
2394	家治 敏明	大阪	4.00	160
2395	渡辺 一利	福岡	4.05	227
2396	福田 正人	長崎	4.64	322
2397	清水 壽士	広島	4.43	424
2398	白木 正夫	岡山	5.06	678
2400	大岡 美博	岡山	4.28	126

2401~2500番				
登番	名前	登録	勝率	1着
2402	松村 隆司	群馬	3.37	4
2403	首藤 森宗	大分	3.84	146
2404	小野 卓生	大分	5.05	972
2405	藤井 映二	福岡	4.87	830
2406	鈴木 勇治	福岡	3.58	84
2407	石川 博美	福岡	5.05	1011
2408	浅井 重良	徳島	5.03	1049
2409	嶋崎 照正	広島	2.13	0
2410	陶山 優公	茨城	4.59	888
2412	藤井 秀樹	静岡	4.65	503
2413	小村 和久	鹿児島	6.03	1594
2414	山本 富男	奈良	4.49	498
2415	須江 雅明	山梨	4.51	638
2416	福本 政秀	山口	4.88	674
2417	小畑 建策	福岡	6.02	1889
2418	長島 修	佐賀	5.38	1261
2419	中西 博美	福岡	3.86	277
2420	白石 正	福岡	4.95	988
2421	和田 公治	広島	4.07	164
2422	大林エレイ	愛知	2.63	1
2423	中島 義昭	福岡	6.42	1607
2424	吉岡 保	大阪	4.22	498
2425	内田 光信	埼玉	4.94	866
2426	大森 千恵	岡山	4.27	561
2427	斎藤 譲一	徳島	4.75	626
2428	齋藤 孝悦	東京	3.16	48
2429	柴田 哲男	三重	5.36	1324
2430	林 貢	岡山	6.57	2625

2431	鈴田 和敏	長崎	5.23	133
2432	三島 哲夫	東京	4.96	988
2433	藤川 征	徳島	4.59	485
2434	古藤 昇	静岡	5.02	916
2435	加藤 正司	香川	3.83	399
2436	重実 慧	広島	4.22	209
2437	坂本 正義	広島	5.18	712
2438	市川 澄男	静岡	5.62	1500
2439	八尋 輝幸	福岡	3.35	98
2440	松元 秀治	福岡	5.29	1128
2441	天田 宏司	群馬	4.37	458
2442	山形 義裕	福岡	5.30	1031
2443	中西 順一	兵庫	4.77	843
2445	水野 正三	東京	4.97	981
2446	高橋 博文	大阪	5.41	1526
2447	上島 久男	愛知	5.74	1534
2448	奥保 和明	大阪	4.67	748
2449	木下 青海	佐賀	5.42	1586
2450	白井 国人	愛知	4.38	442
2451	高市 好輝	佐賀	5.40	934
2452	鳥居 幸栄	愛知	4.86	951
2453	村中 徹	山口	4.51	476
2454	林 良助	山口	4.43	522
2455	清水 正範	香川	4.01	32
2456	根岸 春雄	埼玉	4.92	630
2457	堀江喜一郎	福岡	5.51	1588
2458	片岡 行晴	岡山	5.19	1062
2459	横川 秀雄	新潟	4.27	330
2460	吉田 博文	福岡	5.33	1022
2461	西田 栄二	鹿児島	4.92	806
2462	井上 英一	愛知	4.87	1010
2463	石田 栄一	福井	6.24	1189
2464	岩津 宅一	岡山	5.30</	

Table with 5 columns: Year, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 1596-1669.

Table with 5 columns: Year, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 1670-1743.

Table with 5 columns: Year, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 1744-1817.

Table with 5 columns: Year, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 1817-1890.

Table with 5 columns: Year, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 1890-1963.

Table with 5 columns: Year, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 1963-2036.

Table with 5 columns: Year, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 2036-2109.

Table with 5 columns: Year, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 2109-2182.

Table with 5 columns: Year, Name, Prefecture, Win Rate, Rank. Rows 2182-2255.

1035	挟間 了	福岡	3.72	107
1036	山本 一俊	愛知	4.65	592
1037	西村 暁	兵庫	5.64	213
1038	清水 友行	佐賀	5.11	867
1039	小柴 凱博	三重	—	—
1040	筒井 嘉秋	香川	4.50	280
1041	長谷川哲司	滋賀	4.15	63
1042	川岸 茂	福井	5.68	1292
1043	蓮岡 晋一	岡山	5.39	29
1044	李谷 典男	静岡	5.02	123
1045	高橋 良祐	滋賀	4.70	563
1046	若林 保久	岡山	4.99	263
1047	安東 功	山口	—	—
1048	今里 吾一	京都	4.52	259
1049	石田 昌男	岡山	4.87	72
1050	吉田 孝寛	徳島	4.32	251
1051	堤 昭二	三重	—	—
1052	高橋 新造	滋賀	3.46	160
1054	梅村 逸正	福岡	4.24	2
1055	鈴木 忠	静岡	3.26	7
1056	前田 道積	福岡	5.20	459
1057	本田 泰三	福岡	6.66	1648
1058	森 邦香	長崎	—	—
1059	杉村 清一	岡山	5.39	1052
1060	園田 稔	滋賀	—	—
1061	田端 秀夫	三重	5.22	20
1062	吉田 茂幸	栃木	6.17	1404
1063	高橋 周治	神奈川	5.93	80
1064	山口 正夫	岡山	6.34	11
1066	三原 武司	徳島	5.10	766
1067	橋 高	岡山	—	—
1068	白水 正久	佐賀	—	—
1069	家守 鶴松	岡山	4.53	111
1070	西山 巖	岡山	3.33	5
1071	伊藤 晋	福岡	4.78	289
1072	松本 憲二	山口	5.14	393
1073	山近 文一	兵庫	4.11	363
1074	木曾 幸雄	山口	—	—
1076	寺下 栄一	大阪	5.18	214
1077	相良 宗光	長崎	5.32	1040
1078	松岡 秀幸	山口	—	—
1079	岸本 敏雄	香川	4.78	588
1080	水谷 清和	福岡	5.01	512
1081	小島 喜昭	佐賀	4.71	383
1082	永野 儀雄	福井	5.90	23
1083	近江 茂	香川	3.64	92
1084	田中 作一	徳島	3.70	77
1085	笹井 隆	岡山	5.54	330
1086	井上 寛幸	福岡	5.46	1055
1087	平川 幸治	三重	—	—
1088	福岡 孔一	徳島	—	—
1090	竹内 亀	山口	5.61	129
1091	石井 万里	福井	5.66	283
1092	津田 利夫	大阪	5.96	672
1093	杉山 正樹	佐賀	—	—
1094	伊藤比呂子	静岡	4.28	11
1095	藤松 道正	静岡	5.90	78
1097	北尾 満成	三重	4.87	618
1098	坂上 龍也	長崎	4.05	400
1099	友田 實	福岡	5.18	267
1100	池田 博	長崎	4.95	395
1101~1200番				
登番	名前	登録	勝率	1着
1101	口石 龍美	大阪	5.19	377
1102	大久保徹一	東京	—	—

1103	小林 行男	滋賀	5.88	51
1104	青木 悠	東京	4.32	15
1105	高橋 隆	山口	5.54	1509
1106	川染 一夫	岡山	5.45	149
1107	土方 幸夫	三重	6.12	327
1108	松島 光夫	愛知	5.18	701
1109	井上 光	佐賀	—	—
1110	脇山 平吉	長崎	3.15	58
1111	中村 順亮	三重	1.00	0
1112	峯 銀藏	佐賀	2.38	1
1113	小野 傳吉	福岡	3.63	160
1115	鳥海 史朗	徳島	5.84	552
1116	原田 幹夫	大阪	4.02	232
1117	浅田 利治	山口	—	—
1118	旅田 金夫	岡山	3.12	109
1119	西中 保	三重	4.67	759
1120	矢倉 数男	三重	4.62	705
1121	秀川 平八	岡山	4.53	27
1122	笹本 武	香川	—	—
1123	島津 末夫	兵庫	4.64	35
1124	山田貴美子	山口	—	—
1125	奥地 弘吉	三重	3.62	180
1126	芹田 信吉	福岡	6.38	1937
1127	今澄 泰磨	山口	—	—
1128	中浦 一男	佐賀	5.17	1
1129	橋本 慶次	福岡	5.83	1337
1130	美喜 勝	徳島	4.36	213
1131	熊沢 賢郎	静岡	3.98	19
1132	谷川 清子	愛知	5.27	687
1133	戸板 君子	岡山	5.16	191
1134	今中 文子	香川	5.23	42
1135	馬場 文治	香川	3.75	207
1136	久保田和光	福岡	4.28	42
1137	樽木 悦郎	佐賀	—	—
1138	箱崎 一雄	福岡	5.66	1108
1139	川村 桂吾	大阪	4.90	766
1140	清水 敬治	愛知	5.18	370
1141	佐藤 岩夫	徳島	5.17	765
1142	伊集院康逸	福岡	4.90	412
1143	岡田 嘉美	福岡	3.87	148
1144	渡辺 英子	長崎	6.86	6
1145	濱岡 福一	岡山	5.43	945
1147	岩藤民之助	岡山	—	—
1148	徳江 通	埼玉	4.43	372
1149	樋口 忠利	佐賀	—	—
1150	田村 昌義	山口	4.73	325
1151	隈本 智暢	福岡	5.65	558
1152	小寺 実	滋賀	6.44	8
1153	廣瀬耕二郎	徳島	5.76	1188
1154	朝倉 猛	香川	4.28	70
1155	都築 重夫	愛知	4.47	242
1156	猪木 隆司	岡山	5.28	763
1157	斉藤 斎	岡山	3.77	133
1158	道場 幸信	福井	5.52	246
1159	佐野多壽幸	三重	4.52	247
1160	中野 芳男	佐賀	6.22	235
1161	田中 勝	滋賀	5.16	1174
1162	合田 巧	山口	4.90	155
1163	加茂 清	佐賀	5.57	1065
1164	影山 昇司	静岡	6.00	1037
1165	溝脇 重敏	福岡	4.72	361
1166	佐古 盛夫	大阪	4.31	430
1167	長尾 巖	徳島	4.26	332
1168	竹内 勝	岡山	5.09	999
1169	中島 輝夫	三重	4.13	14

1170	坂井 静雄	三重	4.30	237
1171	西田 眞治	山口	5.68	1790
1172	深見 菊市	静岡	6.35	562
1173	原 覚	徳島	4.46	15
1174	中野 文吾	兵庫	5.94	51
1175	南治小枝子	長崎	—	—
1176	浦尾 光孝	東京	5.60	287
1177	洲崎 敬一	神奈川	4.60	130
1178	富田 久義	愛知	—	—
1179	松本 次夫	佐賀	3.72	162
1180	藤本 茂	長崎	5.93	13
1181	奥野 晃三	三重	2.43	0
1182	谷口 俊之	三重	5.45	562
1183	今中 毅	静岡	4.94	19
1184	中川 清己	福岡	—	—
1185	石川 二郎	愛媛	6.52	607
1186	浜田 登	鹿児島	5.06	386
1187	倉藤 義孝	香川	5.41	153
1188	林 喜久	兵庫	—	—
1189	萩原 一豊	岡山	5.71	43
1192	仲前 智司	岡山	5.17	37
1193	住友 実	徳島	5.34	440
1194	高尾 稔	愛媛	—	—
1195	河井 優	徳島	5.84	1359
1196	片沼 寿雄	岡山	4.17	148
1198	岸 至孝	徳島	4.83	173
1199	石川 洋	愛知	6.28	2223
1201~1300番				
登番	名前	登録	勝率	1着
1201	中原 治仁	徳島	5.92	1424
1202	木内 勇	徳島	5.05	842
1203	松尾 泰宏	佐賀	6.65	2644
1204	中島 孝	佐賀	2.79	89
1205	原田 好子	香川	5.32	37
1206	洲脇 宏三	岡山	4.96	58
1208	市川 義正	東京	3.66	3
1209	青木 禧憲	愛知	4.15	230
1210	橋口 幸昌	佐賀	4.05	322
1211	鎌田 吉男	静岡	4.48	13
1213	徳田 嘉己	東京	6.73	552
1214	中村 佳果	福岡	4.69	366
1215	森下 博昭	山口	5.67	1224
1216	森川 功	埼玉	5.95	171
1217	歌谷 聰	香川	5.47	712
1219	若田 昭	佐賀	4.92	13
1220	岩田 善雄	佐賀	4.90	503
1221	奥野 文子	埼玉	—	—
1223	鈴木 利幸	静岡	—	—
1224	谷川 政種	広島	5.66	83
1225	末次 健治	東京	—	—
1226	伊東 康吉	愛知	—	—
1227	筒井 享	香川	4.41	14
1228	東海 晃雄	三重	5.41	106
1229	杉本 武	静岡	6.15	18
1230	山中 與一	佐賀	3.42	1
1231	富田 弘行	岡山	5.22	47
1232	鶴澤 要	東京	4.38	55
1233	原田 力矢	佐賀	3.34	159
1234	田中 政雄	福岡	3.90	9
1235	大石 利樹	兵庫	5.40	1238
1236	宮澤 兵氏	静岡	5.47	512
1237	白水 純子	長崎	3.78	2
1239	山本 俊	福岡	5.81	668
1240	猪狩 隆司	東京	5.03	550
1241	本多 于文	愛知	—	—

1242	吉川 正峰	愛知	—	—
1243	坂本 信夫	兵庫	5.22	43
1245	原田 治	福岡	5.81	844
1246	白井 利夫	愛知	4.86	234
1247	山口 通	滋賀	4.98	36
1248	山本 一博	福岡	4.33	225
1250	平田 光治	大阪	5.53	1049
1251	井下 邦男	香川	5.90	1531
1252	本谷 一成	福井	—	—
1254	上原 久生	福岡	3.65	240
1256	の尾 剛典	滋賀	6.05	874
1257	柿谷 隆夫	福井	3.56	84
1260	阪田 善生	兵庫	4.62	36
1261	小田 恒喜	福岡	4.74	210
1262	大河内 博	佐賀	4.14	192
1263	荒川 健三	静岡	5.14	956
1264	早川 行男	静岡	6.30	699
1265	吉田 出世	岡山	—	—
1266	原田 主税	香川	4.59	158
1267	森 勝芳	長崎	4.52	572
1268	楠本 康喜	長崎	4.01	353
1269	相原 譲	広島	—	—
1270	柚木 彰雄	静岡	4.49	46
1271	鈴木 幸雄	大阪	3.81	6
1272	淵上 正治	千葉	5.68	301
1273	佐藤 尚武	大阪	5.47	408
1274	出口 義信	福井	6.05	752
1275	岩谷 瓊司	神奈川	5.32	164
1276	出口 勝	福井	—	—
1277	井石 蔵夫	長崎	4.33	287
1278	堀尾渡支子	静岡	—	—
1279	根本 和子	東京	4.68	54
1280	松井 敏	福岡	3.92	64
1281	鈴木 春己	愛知	6.99	684
1282	金子 勇	佐賀	4.26	530
1284	長瀬 忠義	広島	7.56	688
1285	松島 義宏	広島	6.17	536
1286	藤井啓太郎	愛知	5.25	1040
1287	紙谷 義郎	大阪	4.53	222
1288	佐竹 文子	京都	6.28	112
1289	山本 禮郎	静岡	4.79	51
1290	早川 豊	静岡	5.39	383
1293	中野 国道	山口	4.85	284
1295	山崎 国雄	埼玉	—	—
1296	吉村 健一	三重	5.13	144
1297	宮野 久夫	岡山	5.82	1392
1298	亀岡紀智信	東京	5.75	1535
1299	小笠原政敏	長崎	3.95	33
1300	小田 茂二	長崎	4.91	927
1301~1400番				
登番	名前	登録	勝率	1着
1301	加藤 力男	茨城	6.14	1161
1302	矢部 健夫	神奈川	4.74	244
1303	鈴木 一義	東京	6.66	933
1304	大路 稔	滋賀	4.78	891
1305	左近 友一	大阪	5.18	374
1307	尾崎 孝男	大阪	6.01	312
1308	小島 博	熊本	4.01	234
1309	西小部 繁	佐賀	4.28	459
1310	鎌田 紀弘	東京	4.44	44
1311	岡本 博	山口	4.09	168
1312	森川 武彦	香川	4.81	342
1314	奥村 末樹	静岡	6.15	1836
1315	高橋 壽	香川	4.26	180
1316	木村 節夫	神奈川	5.13	107

1317	清水 健治	神奈川	5.16	538
1318	安井 澄	京都	4.44	536
1319	江島 昱雄	福岡	—	—
1320	田島 利徳	群馬	5.08	827
1321</				

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 479-500.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 551-600.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 621-700.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 692-700.

501~600番

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 501-550.

601~700番

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 601-650.

701~800番

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 701-750.

801~900番

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 801-850.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 758-800.

801~900番

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 801-850.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 825-900.

901~1000番

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 901-950.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 896-900.

1001~1100番

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 1001-1050.

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 967-1000.

1001~1100番

Table with 5 columns: Rank, Name, Prefecture, Wins, Losses. Rows 1001-1050.

ボートレース誕生60周年&第1回賞金女王決定戦 開催記念企画

次世代へ語り継ぎたいファン投票 投票対象

60年の歴史を紡いできた 4000名以上の ボートレーサーを網羅!!

全選手リスト

昭和27年以降平成24年9月までの60年間で、選手として登録された人数は4736名にのぼる。

ちなみに登録第1号は、ボートレース生みの親である全国モーターボート競走連合会の笹川良一氏で、10番までは関係者に贈られた。したがって実際の選手の登録番号は、11番から始まっている。創設当初は琵琶湖を中心に選手養成が行われていたため、二桁の登録の選手は、琵琶湖のある滋賀と、初めて開催をした大村(長崎)の選手が多かった。

31年10月に琵琶湖養成所が解散、32年2月から全モ連が第1期

選手の養成を開始。それまでの登録1300番台半ばまでの琵琶湖養成選手は、「期前」と呼ばれるようになった。さらに41年、登録2100番台半ばからは本栖研修所での研修が始まった。

女子も創成期の頃から在籍しており、最も古いのは78番の則次千恵子。1500番前後から登録が少なくなり、2945の鈴木弓子は9年ぶりの女子選手として注目を集めた。

登録が4000番台に達したのは、84期の松本博昭から。2001年3月からは選手養成がやまと学校に移り、88期(登録4099以降)の一部訓練からはこちらに移行した。

※勝率欄はその選手の生涯通算勝率です。また、当該選手の正式な競走記録が残っていない場合は「-」表記としています。懲戒処分等を受けた選手はリストより除外しています。

Table with columns: 登録番号, 名前, 登録, 勝率, 1着. Rows 11-100.

Table with columns: 登録番号, 名前, 登録, 勝率, 1着. Rows 60-100.

Table with columns: 登録番号, 名前, 登録, 勝率, 1着. Rows 108-200.

Table with columns: 登録番号, 名前, 登録, 勝率, 1着. Rows 157-200.

Table with columns: 登録番号, 名前, 登録, 勝率, 1着. Rows 206-300.

Table with columns: 登録番号, 名前, 登録, 勝率, 1着. Rows 273-300.

Table with columns: 登録番号, 名前, 登録, 勝率, 1着. Rows 342-400.

Table with columns: 登録番号, 名前, 登録, 勝率, 1着. Rows 407-406.

記憶に残る 数々の個性派選手

あだ名の付いた差し屋たち

記録には残らなくても、ファンに強烈な印象を残した『記憶に残る』個性派選手もまた、後世に語り継いでいきたい。表に掲載した選手以外にも、何人か紹介していこう。一応引退した選手を中心とするが、現役でも名を残しておきたい選手はここに記しておく。

まずはひとつの戦法を極めて、観客席を唸らせてきた面々から――。

「インの鬼」で名を馳せた記念級といえば、柴田稔・倉重宏明・野口徳三ら。記念だけでなく、一般戦でも物部勝や加藤尚明らは、徹底したイン取りで有名だった。現役では関忠志・鈴木幸夫・西島義則らの名が挙がるだろうが、枠なり時代になって2・3コースも増えている。

逆に大外専門という選手も、今に比べれば昭和の時代には多かった。その代表が向義行



モンキーターンを世に出した飯田加一

で、大外一本で1500勝は驚異的だし、75年の津施設改善記念も制している。その後現れたのが吉岡修・小川晃司で、さらに現在の枠なり時代にセンセーションを起こしたのが阿波勝哉である。

まくりは、創設間もない頃から長らく関東の選手の得意技だったが、80年代に一世を風靡したのが津田富士男の「絞りまくり」。また事故で早くにレースから去った北方正孝の破壊力に溢れたまくりは、今や九州の中高年ファンの伝説になった。

差しの名手には、ニックネームが付いて回った。松野寛は「マツカン差し」、近藤幸男は「差しコン」、今林伸正は「差しバヤシ」。SGクラスでは、福永達夫の左隣コースのまくりに乗ったマーク差しが絶品だった。

史上最高のスタート王・瀬尾

ボートレースといえば、やっぱりスタートが華。スタートの果敢な選手は、成績以上にファンの人気も高かった。南公・貴田宏一・岩口昭三・井上利明らは、平均STが0.25という時代に0.17前後が普通だった。「フライングを怖れぬスタート野郎」というキャラクターなら、昨年惜し



史上に名を残すテクニシャンの中道善博

まれて引退した上島久男と現役の兼島敏弘が双壁か。純粋なスタートの天才といえば、これはもう瀬尾達也以外にいない。どんな制度・条件に変わっても、常にトップスタートで行けるのだから…。

極端な伸び型にする選手は昔からいたが、必ずしもアウト屋だけではなかった。吉田重義などはインやセンターでも、チルトをハネた上にライナーを積んでいた。

整備の名手と謳われたのは、ギャケースの小澤成吉、プロペラの松本進、ピストンの倉尾良一ら。部品名までプラスされて呼ばれたように、職人肌の選手が多い。「ジェット」大平浩士、スーパービット離れの西田靖らも忘れてはならないだろう。

枠なり進入が定着する前は、コース争いの



「佐賀のキャノン砲」大外一本を貫いた向義行

●強烈な個性派選手・その1(戦法編)

戦法など	登番	選手名	出身	エピソード・その他
インの鬼	1481	柴田 稔	静岡	ニックネームは「鬼バタ」
	2569	西島洋一	兵庫	枠なり時代でも9割イン!
アウト専科	2327	向 義行	佐賀	ほぼ大外のみで1500勝
	2964	吉岡 修	山口	記念でも「わが道」の走り
まくり	2717	津田富士男	大阪	絞りまくりの代名詞的存在
	2875	北方正孝	佐賀	事故さえなければ…
差し	1592	松野 寛	静岡	「マツカン差し」で大仕事
	2205	福永達夫	山口	マーク差しは天下一品!
スタート野郎	2447	上島久男	愛知	Fを94本切ってもメゲず
	2942	瀬尾達也	徳島	天才ロケットスターター
極端な伸び型仕様	2417	小畑健策	福岡	往年の「チルト3の男」
	2288	吉田重義	大阪	ライナーを目一杯積んで
整備の名手	1370	小澤成吉	愛知	自主整備導入で蘇った
	1738	松本 進	愛知	プロペラにいち早く注目
カド取り名人	2325	渡辺義則	宮崎	巧みに自分をカドにする
ダンブ	1596	小林嗣政	山口	「関門の虎」が牙をむく!

記録よりも記憶に残るレーサーの代表、植木通彦

●強烈な個性派選手・その2(バラエティ編)

キャラクター	登番	選手名	出身	エピソード・その他
軽量級	2289	上船俊一	奈良	あまりに出るので「トビ船」と
	3165	平岡君江	千葉	35kgを割ることもあった!?
重量級	2014	高塚清一	静岡	スタートでハンデをカバー
	2090	黒明良光	岡山	レースの迫力は歴史に残る
地元「天皇」	1203	松尾泰宏	佐賀	唐津周年は3連覇を含めV7
	2502	松田雅文	福岡	「博多大将」といえばこの人
一般戦の鬼	2276	古谷 猛	岡山	一般戦だけで75回の優勝
	1644	吉田清志	岡山	全国24場の一般戦で優勝
無冠の帝王	2528	新井敏司	栃木	GIは19回も制した関東の雄
	2833	荏林幸輝	熊本	SG優出19回も頂点に届かず
優出王	2819	足立保孝	大阪	76回目の優出で悲願のV!
波浪水面の鬼	3054	北川幸典	広島	風・波が出ることを祈願!?
遅攻派	1897	石塚憲明	静岡	Fのきで2回記念を手にした
モンキーターンの祖	2679	飯田加一	東京	ターン革命を起こした異端児
異形のターン	2170	古川文雄	佐賀	長身を折りたたむ独自の旋回
ランナ王	2449	木下青海	佐賀	腕つぶしが強く豪快なシャクリ



奇抜なターンが目をついた長身の古川文雄

上手い・下手がモノをいった。イン争いは当然ながら、カド取りも見応えがあり、中でも渡辺義則の巧みさはこの上なかった。

ダンブは賛否両論あれど、ファンを沸かせたことは事実。闘志むき出しの小林嗣政をはじめ、ニックネームもそのまま「ダンブ」浅見敏夫、「ガッツ」玉生正人らが登場すると、ファンも何かやってくれそうと期待したものである。

体重制限で悲喜こもごも

続いて、ユニークなキャラクターであったり、バラエティ色にも溢れた選手たちを探っていこう。

88年、昭和の最後に実施された最低体重制。この前までは、軽量級選手にとっては天国で、重量級選手のハンデは大きく、トップ選手は過酷な減量合戦を強いられた。

軽量級で名を知られたのが、上船俊一・吉田雅壽・半田幸男ら。40kg台前半で乗れるのだから、エンジンはケタ違いに出た。女子はさらに軽く、平岡君江などは148cmしかなかったので、30kg台前半とも噂された。

重量級の対抗策は、際どいスタート、一か八かのターン、エンジン出しを求めている整備力アップ。一時復活したランナ戦へのあっせんを希望する選手もいた。黒明良光はその豪快なターンでスターとなったが、その反動でFや転覆

印象深い向義行の引退パーティー

喜多條忠(作詞家)

ボートレース殿堂選考委員でもある喜多條氏は、個性派3人の名を挙げてこう語ってくれた。「インのセキチュウ(関忠志)。F2で01の逃げを見せられたらグウの音も出なかったね。兼島敏弘もF3でまくったりと気風が良かった。全国を追いかけつて舟券を買った。軽かったのでひとまくりが多かったね。」

面白かったのは向義行の引退記念パーティーのこと。同期の野中(和夫)らに加えて、九州の名だたる選手も皆来ていた。「お前、こんなに人気があったのか?」と聞いたら、「だってオレは、コース取りで誰にも迷惑をかけたからな」と。6コースで1500勝は凄!! 性格は豪快そのものだった」



廃止されたランナの走りを披露する木下青海

事故も多かった。

地元の水面で格段に強さを発揮する選手も、今よりずっと多かった。どの場にも「大将」とか「天皇」と呼ばれる主がいたもの。唐津の松尾泰宏、福岡の松田雅文、鳴門の中道善博、琵琶湖の野崎進、宮島の矢尾一豊らは、地元ファンへの貢献度は抜群だった。その後の世代になる戸田の池上裕次、琵琶湖の山田豊らもこの列に加えていいだろう。

記念には縁がなくても、ひたすら一般戦で優勝を重ねた選手も少なくなかった。『競艇王国』と呼ばれ、記念選手が溢れていた岡山にとくに多く、石田栄章・吉田清志・武田章・古谷猛らがその典型で、万谷章もそのひとりだった。

個性派の頂点・飯田加一

SGの「名脇役」であり、「無冠の帝王」と呼ばれる選手も何人かいる。表中の新井敏司と荏林幸輝はあまりに有名だが、他では古賀武日・角川政志・桑原淳一ら。長嶺豊もこの仲間入りをしそうだったが、50歳のダービーVで大仕事を成し遂げた。

さらに一般戦クラスになると、もはや不思議とさえない記録の持ち主もいた。代表例が足立保孝ではなかったか。初優勝まで優出が76回を数えたというのは珍記録ともいえる。荒れ水面は嫌いという選手がほとんどの

ずだが、中には『風波乞い』をしていると噂の選手もいる。北川幸典がその人だ。昔は消波装置や防風壁がなくて、荒れ水面になるレース場も多く、星野幸正・大岩章・岩口昭三・島也茂らも荒天巧者として名が通っていた。

個性派に勲章をあげるなら、それに最もふさわしいのは飯田加一だろう。モンキーターンを生んだというだけで、長い説明は不要だろう。そのモンキーとも少し違うが、古川文雄は独特のターンで異彩を放っていた。長身で重量級でもあったので、体重移動については常に考えていたという。

そして最後に挙げておきたいのは、今は廃止されてしまったランナバウトの艇王・木下青海。今となってはあの豪快なシャクリが懐かしい。



50歳で初のSG制覇、ファンも涙した長嶺豊

記録を残した偉大なレーサーたち

群を抜く北原と加藤の偉業

ボートレースの歴史に名を刻み、多くの記録を残した偉大なレーサーの面々にスポットを当てていこう。今回の投票の参考になれば幸いである。なお今回の記録集計にあたっては、原則として公式データが整理されている1960(昭和35)年5月1日以降で本年10月10日までのレースを対象としている。また笹川賞の前身として行われていた全国地区対抗戦の個人優勝は、SG並びに記念優勝の回数には加えていない。そして、レースの公正を損なったなどの事由で懲戒処分を受けた選手は、各リストから外している。



史上最多勝の記録ホルダー・北原友次

では、まずは1着数だ(表1)。このランキングに関しては、一部1960年以前のデータを含んでいる。燦然と輝く北原友次の大記録に続くのは、“鉄人”加藤峻二。ちなみにこのトップ2人は5期の同期生である。

長い歴史においても、3000勝を達成したのはわずか4選手にすぎない。89年に倉田栄一が初めて到達、95年に北原がそれを更新した。ちなみに3000番台での最多は山室展弘の2241勝。昔ほどトップクラスの選手の出走回数は多くないので、北原の記録は空前絶後と思われる。

出走回数(表2)では、既に加藤がトップを独走しており、日々更新している。こちらも不滅の記録として未来永劫残りそうだ。2位以下には、SGを勝ちまくった超強豪は意外に少なく、むしろ万谷章を筆頭に、高塚清一・金井秀夫・近藤幸男ら一般戦強豪が多い。また酒井忠義・原田順一と晩成型の選手も目につく。

今村の勝率アップは驚異的!

生涯勝率(表3)は、数字の積み重ねとなる通算成績と違って、現役選手に有利な部門。老齢を迎えて成績を落とすと生涯勝率は下がってしまう、昔に比べて点増しのSGやGIがはるかに多いからだ。

参考までに、「マクール」に掲載されていた96年9月時点のランキングでは、①野中和夫7.78②今村豊7.66③岡本義則7.48④中道

善博7.16⑤小林嗣政7.11。今回の表3の数字の方が全体的に高く、また現役戦士が7人名前を連ねている。

それにしても驚異的なのは、今村の勝率だ。50歳を迎えてまだ上昇中で、歴代1位をキープしている。今村に迫るのは松井繁と山崎智也で、白井英治や瓜生正義もまだまだ右上がり。今村の座を脅かす。

SG優勝回数(表4)では、いまだ野中の17回という金字塔が輝く。選手生活の晩年にSGが増え、グランドチャンピオン決定戦やオーシャンカップも制したのでこの数字に達したが、史上初のSG3連覇を成し遂げるなど、SGの大舞台では無類の強さを誇った。とくにファン投票の笹川賞には本人の思い入れも強く、6回の優勝を飾っている。

北原は最初のグランドスラマー。全盛期が『4大特別競走』の時代に7回の優勝を挙げたことは、SG9冠時代の現在とは重みが違う。

ここでも現役では、松井があつ何回の優勝を加えられるかが注目。池田浩二と瓜生もまだまだ数を増やして、ランキングの上位に上がってきそう。



大舞台での強さはケタ外れだった野中和夫

生涯賞金トップは既に松井繁

GIまでを含んだ、いわゆる「記念制覇」のランキング(表5)では、既に松井繁がトップに出た。松井の全成績をたどると、稀なほどコンスタントだ。2個目のGIを手にした95年以降今年まで、記念を勝てなかったのは2005年だけ。デビュー20年、39歳で記念50勝に達したの

表4●SG優勝回数ベスト10

順位	登番	選手名	出身	現役	SG優勝
1	2291	野中 和夫	大阪		17
2	3285	植木 通彦	福岡		10
2	3415	松井 繁	大阪	★	10
4	2096	中道 善博	徳島		8
4	3388	今垣光太郎	石川	★	8
6	1481	北原 友次	岡山		7
6	2992	今村 豊	山口	★	7
6	3024	西島 義則	福岡	★	7
6	3941	池田 浩二	愛知	★	7
10	3622	山崎 智也	群馬	★	6
10	3783	瓜生 正義	福岡	★	6

ベスト10に続くのは、5回の田中信一郎・太田和美・井口佳典。史上で5回以上SGを勝った選手は、懲戒選手を除くと14人。井口は登番4000番台で早くもそれに加わり、85期同期の湯川浩司が4回、田村隆信が3回でこれを追う。

表5●記念(SG+GI)優勝回数ベスト10

順位	登番	選手名	出身	現役	記念優勝
1	3415	松井 繁	大阪	★	58
2	2291	野中 和夫	大阪		56
3	2992	今村 豊	山口	★	52
4	1481	北原 友次	岡山		46
5	2096	中道 善博	徳島		38
6	318	倉田 栄一	三重		35
7	1488	岡本 義則	福岡		34
8	3285	植木 通彦	福岡		33
9	3388	今垣光太郎	石川	★	31
10	1864	安岐 真人	香川		27

北原友次・倉田栄一・岡本義則らの全盛時代は、今よりずっとSG、GIの数が少なかったが、30勝以上の記録を残しているのは驚異的。4000番以降では湯川浩司が最多で12勝(SG4勝+GI8勝)。SG未勝利のGI最多勝利選手は新井敏司(19勝)。

は史上最速で、今年1月の尼崎周年を制して、遂に野中をも抜いた。

松井・今村に続く現役選手は、今垣光太郎の31勝。以下、山崎26勝、加藤と服部幸男が24勝と続く。上位とはまだまだ差がある。

生涯獲得賞金(表6)でも、トップは既に松井。歴代でただひとり30億円に達しており、日々自分の記録を更新している。年間2億円突破を5回記録していて、これも史上最多だが、そのうち3回は賞金王決定戦の優勝なしでマークしたもの。いかに毎年キッチリ稼いでいるかわかる。

今垣までが20億円を突破しており、現役の濱野谷憲吾と山崎が、次の20億円レーサー

表6●生涯獲得賞金額ベスト10

順位	登番	選手名	出身	現役	賞金額
1	3415	松井 繁	大阪	★	30億7000万
2	2992	今村 豊	山口	★	26億2000万
3	3285	植木 通彦	福岡		22億6000万
4	3388	今垣光太郎	石川	★	22億4000万
5	2291	野中 和夫	大阪		18億5000万
6	3590	濱野谷憲吾	東京	★	18億4000万
7	3622	山崎 智也	群馬	★	18億1000万
8	3024	西島 義則	福岡	★	17億2000万
9	1864	安岐 真人	香川		16億9000万
10	3422	服部 幸男	静岡	★	16億7000万

こちらの項目は、SGやGIも多く、賞金が最も高かった平成10年代に全盛を迎えた選手が上位へ。植木通彦がまだ引退していないければ、どれだけ稼いだらうか。その中で加藤峻二も16億円近くを稼いでいるのはさすが。

こんなNo.1記録の持ち主はこの選手!

1位の項目	記録	達成選手	備考
最年長出走記録	69歳9ヶ月9日	加藤峻二	2011年10月21日に更新
最年長のGI優勝	62歳5ヶ月	万谷章	2006年の名人戦で優勝
記念のデビュー最短優勝	1年2ヶ月	今村豊	1982年の丸亀30周年で達成
SGのデビュー最短優勝	2年11ヶ月	今村豊	1984年の笹川賞で達成
SG最年少優勝	21歳9ヶ月	服部幸男	1992年のダービーで優勝
年間獲得賞金	2億8393万円	植木通彦	2002年に達成
期間勝率	9.53	野中和夫	1975.5.1~10.31にマーク
連勝	22連勝	岡本義則	1980年に達成
同一レース場での連勝	20連勝	中道善博	鳴門で1981~82年にかけて達成
全グレード合計の優勝回数	163回	北原友次	SG7回+GI39回+GII以下117回
同一SGの優勝回数	6回	野中和夫	笹川賞で記録
3週の走破タイム	1分42秒2	馬場貴也	今年1月26日に琵琶湖でマーク

歴代のランキングよりむしろ、1位の記録に大きな注目が集まる項目をいくつか集めてみた。まず最年長記録の多くは、加藤峻二が多く持っている。その代表は何といつても出走記録で、昨年10月に更新して以来日々更新。今年の年明けには初の70歳レーサーとなった。加藤はFの少ないことでも記録的で、3000走Fなしを2回マークしているのも彼だけだ。

逆にデビューからの最短記録や最年少記録は、今村豊や服部幸男がマーク。女子限定なら平山智加が最速記録をいくつか更新している。

年間獲得賞金の1位は植木通彦が持つ。2002年にSGを3勝して2億8千万円を稼いだ。植木は感動的なレースを数多く見せてくれたが、まだ強いうちに引退してしまったので、記録面では意外にその名が残っておらず、この年間獲得賞金ぐらいた。

9.53という空前の期間勝率を残した時の野中は、それに付随して様々な記録を作っている。この期間だけで12回優勝。そのうち8回が記念だった。51年の年間16回優勝、記念V9も後世に残る。

最後にひとつ、現役の若手レーサーが残した記録を覚えておきたい。馬場貴也が作ったレース3週の走破タイムだ。今年1月26日に琵琶湖で作ったのが1分42秒2のレコード。新ペラ制度の導入で、レースタイムは格段に速くなっているので、この記録は相当長い年月、破られないと予想される。

※懲戒処分を受けた選手の記録は対象外です



ボート創成期に“神様”と呼ばれた倉田栄一

表7●年間賞金王獲得回数ベスト5

順位	選手名	回数
1	野中 和夫	7
2	松井 繁	5
3	北原 友次	4
3	倉田 栄一	4
5	加藤 峻二	3
5	植木 通彦	3

(1956年以降)

表8●期勝率1位獲得回数ベスト5

順位	選手名	回数
1	野中 和夫	10
2	今村 豊	9
3	岡本 義則	8
4	倉田 栄一	6
4	植木 通彦	6

(1958年前期以降)

表1●1着数ベスト10(一部1960年以前のデータを含む)

順位	登番	選手名	出身	現役	1着数
1	1481	北原 友次	岡山		3409
2	1485	加藤 峻二	埼玉	★	3262
3	318	倉田 栄一	三重		3088
4	1488	岡本 義則	福岡		3030
5	678	瀬戸 康孝	佐賀		2958
6	962	吉田 弘明	愛知		2834
7	1710	万谷 章	岡山	★	2821
8	1910	大森 健二	岡山		2729
9	1781	谷川 宏之	愛知		2653
10	2276	古谷 猛	岡山	★	2652

3000勝をマークした選手は4人だけ。最近では年間100勝する選手といえは15人前後で、昨年の最多勝は勝野竜司と瓜生正義の124勝。3000勝をあげるには、100勝を30年間に渡って残さねばならないのだから途方もない。

表2●出走回数ベスト10

順位	登番	選手名	出身	現役	出走回数
1	1485	加藤 峻二	埼玉	★	14122
2	1710	万谷 章	岡山	★	11573
3	1759	酒井 忠義	香川	★	11320
4	1481	北原 友次	岡山		11139
5	2014	高塚 清一	静岡	★	10936
6	2430	林 貢	岡山		10816
7	1531	井上 弘	群馬		10543
8	2273	原田 順一	福岡	★	10258
9	2042	金井 秀夫	群馬		10190
10	2015	近藤 幸男	神奈川	★	10181

最近の選手の平均的な出走回数は1年で200走程度で、300走する選手は10人程度。登録3000番以降で最多は西山昇一の7714走。SG常連よりむしろ、一般戦で上位の成績を残し、スタート事故の少ない選手が上位に来る。

表3●生涯勝率ベスト10(出走回数2000走以上)

順位	登番	選手名	出身	現役	勝率
1	2992	今村 豊	山口	★	7.88
2	3415	松井 繁	大阪	★	7.82
3	3622	山崎 智也	群馬	★	7.71
4	3285	植木 通彦	福岡		7.58
5	3897	白井 英治	山口	★	7.55
6	2291	野中 和夫	大阪		7.50
7	3783	瓜生 正義	福岡	★	7.48
8	3422	服部 幸男	静岡	★	7.46
9	3388	今垣光太郎	石川	★	7.46
10	1488	岡本 義則	福岡		7.45

ベスト10の後も、11位に上瀬和則、12位濱野谷憲吾、13位池田浩二と現役が続く。また出走回数を1000走以上に緩めれば、5位に“サムライ”と呼ばれたファイター・長瀬忠義(登番1284・広島・勝率7.56)が入ってくる。



昭和34年頃のレース風景。当時はランナが主流



「ボートレース発祥地記念館」の競艇殿堂展示

http://boatrace60th.jp

この60周年で、次世代に伝えるべきことを遺しておく事業は、やはり発祥の地である大村が行うことに意義がある。

おりしも大村では、5年ほど前から「ボートレース殿堂」を立ち上げ、ボートレースに貢献してきた数々の名選手たちに光を当ててきた。そのため委員会は毎年開かれている。

またレース場の敷地内には「ボートレース発祥地記念館」を建設して、創設当初から現在までの資料や写真などを、バラエティ豊かに展示している。

そしてこの度は「開設60周年記念顕彰事業」として、『次世代に語り継ぎたいボートレーサー』『世代を超えた夢の対決』『史上最強の個性派レーサー』といったテーマで、全国のファンから広く投票を募ることとなった。もちろんボートレースはこれからもずっと続いていくわけだが、「還暦」をひと区切りとして、ファン目線でこれまで活躍してきたレーサーを振り返っておくことは意義があるだろう。だから投票の対象は総勢4000名以上に上る、引退選手も含めた全レーサーたちだ(*注1)。

その専用サイトは既に10月下旬にオープンし、投票も始まっている(アクセスは上記URL、または表紙のQRコードから)。このサイトは、膨

大な選手の中から、投票選手をたやすく選べるような工夫が凝らされており、たとえば通算勝率や生涯獲得賞金額、優勝回数、1着回数などの項目別にランキングを表示させることが可能だ(*注2)。それも上位選手に限っていないので、通算勝率が250位の選手は誰か、なんてことも知ることができる。また選手名を指定しての検索もでき、姓が「山崎」の選手の中でGI優勝回数が多いのは誰か、といったことさえ調べられる。つまり投票だけでなく広くボートレース好きが楽しめるサイトというわけだ。パソコン、スマホ、携帯電話でもアクセスが可能だが、いろいろ遊んでみるならパソコンまたはスマホ経由が見やすくおすすめだ。

なお、投票の参考として、前述のボートレース殿堂入りしている名選手たちのリストを右に掲げておいた。各々がどのような記録を残しているのか、投票サイトで調べてみるのも楽しいのではなかろうか。

今回の投票はボートレースファンが、60年の歴史の証言に自身の声を反映させる絶好の機会だ。ぜひ投票に参加してほしい。

*注1 懲戒処分などを受けたレーサーは除外されている
*注2 選手データは平成24年10月5日現在のもの



投票専用サイト

投票の手順はまず「次世代に語り継ぎたい選手」として男性10名、女性2名を投票。さらにその中から「世代を超えた夢の対決ベスト6」の選手として6名を選出。さらに「史上最強個性派レーサー」として以下のテーマから各1名を投票する。「イン逃げ最強」「差し最強」「テクニック最強」「まくり最強」「まくり差し最強」「スピード最強」。

ボートレース60周年 ～新たな時代へのスタート～

昭和20年代半ばになっても、まだ日本各地では戦後復興に苦しむ自治体が多かった。そこで「地元住民に娯楽や職場を提供しながら財源も確保できる」と導入されたのが「公営競技」で、ボートレースもそのひとつだった。

昭和27年、全国に次々とレース場が作られ、そして選手養成も駆け足で行われる中、4月6日に長崎県大村市の玖島崎で、初のモーターボートによるレースが開催された。全てが手探りで、まさに「嵐の船出」だったという。

大村に続いて、ほどなく津・琵琶湖が開場。そして31年の桐生までではば現在の全国24場体制が整った。

初期の頃はどこの場合も運営が厳しかったが、やがてスター選手の登場やエンジン性能のアップによるレースのスピード化、さらに高度成長の追い風もあって軌道に乗った。

しかしいい時ばかりではなかった。その後、バブル崩壊や長引く不況での売上げ下降にも対処しながら、電話投票やインターネットによる全

国発売の拡充など、様々な状況の変化を乗り越えて、今年60年目を迎えた。そしてこれまでファンの支持があって、地方財政への寄与や社会貢献にも大きく役立ってきた。

ひとくちに60年というが、人間でいえば「還暦」。ここで将来に向けて、初心に戻って新たなスタートを切る時でもある。そのためにも、これまでのボートレース60年を総括しておく必要があるだろう。



昭和27年、記念すべき初開催で優勝した山下勇



大時計も時代によって変遷を見せてきた



初開催で使われたボートとエンジン(現在も使用可)

ボートレース誕生60周年事業

次世代へ語り継ぎたいファン投票

ボートレース「殿堂」選手

登番	名前	出身地
13	三津川 要	滋賀
318	倉田 栄一	三重
678	瀬戸 康孝	佐賀
1203	松尾 泰宏	佐賀
1481	北原 友次	岡山
1485	加藤 峻二	埼玉
1488	岡本 義則	福岡
1596	小林 嗣政	山口
1812	長嶺 豊	大阪
1864	安岐 真人	香川
2090	黒明 良光	岡山
2096	中道 善博	徳島
2291	野中 和夫	大阪
2502	松田 雅文	福岡
2672	高山 秀則	宮崎
2945	鈴木 弓子	愛知
3285	植木 通彦	福岡

ボートレース「マイスター」選手

登番	名前	出身地
294	楠和 男	香川
522	古川美千代	三重
637	南 公	京都
693	宮原 和敏	福岡
884	山田 豊志	福岡
899	竹内 虎次	岡山
962	吉田 弘明	愛知
976	貴田 宏一	岡山
1057	本田 泰三	福岡
1126	芹田 信吉	福岡
1199	石川 洋	愛知
1284	長瀬 忠義	広島
1359	北島 英男	佐賀
1370	小澤 成吉	愛知
1395	北川 一成	広島
1460	花田 稔	兵庫
1493	鈴木 文雄	神奈川
1496	浅見 敏夫	埼玉
1531	井上 弘	群馬
1592	松野 寛	静岡
1620	星野 幸正	群馬
1643	武田 章	岡山
1644	吉田 清志	岡山
1670	岩口 昭三	福井
1729	脇辰 雄	兵庫
1738	松本 進	愛知
1781	谷川 宏之	愛知
1845	山本 泰照	岡山
1853	大平 浩士	岡山
1884	柴田 稔	静岡
1910	大森 健二	岡山
1911	加藤 元三	福井
1948	脇山 久夫	佐賀
1950	瀬古 修	三重
1952	村田 瑞穂	三重
1962	井上 利明	大阪
2021	古賀武日児	福岡
2036	倉重 宏明	福岡
2073	村上一行	岡山
2160	立山 一馬	大阪
2170	古川 文雄	佐賀
2260	林 通	岡山
2288	吉田 重義	大阪
2324	栗原孝一郎	埼玉
2325	渡辺 義則	宮崎
2327	向 義行	佐賀
2362	浅香 登	三重
2430	林 貢	岡山

投票受付中!!